

成蹊大学社会調査実習 2006 年度報告書

—第 1 回 地域と生活に関する武蔵野市民調査—

成蹊大学社会調査士課程 監修

はじめに

本書は、「第1回地域と生活に関する武蔵野市民調査」の報告書です。成蹊大学文学部現代社会学科の「社会調査実習」という授業の一環として、2006年9～10月に東京都武蔵野市で調査を実施しました。

調査では、人びとが生活や地域についてどのように考えているのかを、明らかにすることを目的としました。現代社会では、グローバリゼーションが進んで地球規模で一体化しつつあるため、ともすれば人びとが地域社会との関わりを失っているかもしれないからです。

そこで、成蹊大学のある武蔵野市で、22～70歳の市民400人を住民基本台帳から無作為に選んで対象として、郵送調査を行いました。発送した400票のうち、206票が有効票として返送されましたので、回収率は51.5%となります。

授業は、教員2名（小林盾・武藤正義）と学生29名で進めました。社会調査士課程の実習科目でもあり、全員が課程履修者でした。学生は関心のあるテーマごとに7つの班に分かれて、調査票作成からデータ分析まで行います。毎週宿題が出るため、授業時間外での活動のほうが長かったようです。

報告書は、第Ⅰ部分析と第Ⅱ部資料から構成されています。分析編では、井の頭公園や家族など身近なテーマから、教育や環境問題のような大きなテーマへと広がるようになっています。資料編には、調査の概要、統計用語の説明、基礎集計表、調査票などがあります。

分析では、武蔵野市の人びとの姿を、さまざまな角度から浮かびあがらせることを目指しました。また、今回武蔵野市を事例として得られた知見は、家族との過ごし方など他の地域でも当てはまることがあるかもしれません。今後も成蹊大学社会調査士課程では、同様の調査を続けていき、成果を地域社会に積極的に還元していきたいと考えています。

この調査を実施し、報告書を作成するにあたって、多くの方々からご協力いただきました。はじめに、回答してくださった方々に深く感謝いたします。おかげさまで、地域と生活についての貴重なデータを集めることができました。住民基本台帳の閲覧では、武蔵野市役所環境生活部戸籍住民課の方々にお世話になりました。

信州大学人文学部の渡邊勉氏には、調査の設計から分析にいたるまで、多くの助言をいただきました。成蹊大学文学部の先生方、とりわけ現代社会学科の先生方、渡辺舞子氏はじめ成蹊大学学務部履修課の方々には、社会調査士課程の運営環境を整えていただきました。教職課程室の方々からは、要所要所でサポートしていただきました。記して感謝いたします。

2008年2月 成蹊大学社会調査士課程
文学部現代社会学科 専任講師 小林盾
文学部現代社会学科 非常勤助手 武藤正義

成蹊大学社会調査実習 2006 年度報告書

—第 1 回 地域と生活に関する武蔵野市民調査—

成蹊大学社会調査士課程 監修

目 次

第Ⅰ部 分析

第 1 章 武蔵野市	村山幸晴・酒井菜未子・梅津望・澤野友佳理	1
第 2 章 家族	望月彩圭・後藤田義人・富澤一恵・宮城島苑子・渡辺恵	7
第 3 章 食事	大久保剛・宇賀神早苗・桑原美波・矢頭かほり	11
第 4 章 住宅	鈴木綾乃・田中千尋・徳原千・宮川季実子	17
第 5 章 地域活動	田中彩起子・岡田晴樹・奥山奈央子・坂井裕美	21
第 6 章 教育	榎本健志・日野原志帆・佐藤春乃・室田知里	27
第 7 章 環境問題	浜谷由実・小栗洋介・柴田和徳・谷澤絵里子	31

第Ⅱ部 資料

A 調査の概要	小林盾・武藤正義	39
B 統計用語	小林盾	45
C 調査実施責任者・実習履修者一覧		47
D 基礎集計表	武藤正義	49
E 調査票と督促状		67

第 I 部 分析

第1章 武蔵野市

村山幸晴（班長）、酒井菜未子（副班長）、梅津望、澤野友佳理

第1節 問題関心

この章では、人びとが武蔵野市とどのように関わっているのかを検討する。なぜなら、近年、都会に限らず地方でも都市化や核家族化が進み、人々の地域にたいする関心や愛着が昔に比べ薄れているかもしれないからである。

また、都会と地方の間で、人々の生活の格差がますます広がってきている。市の財政が破綻し、住み慣れた土地を離れざるをえないという深刻な事態を抱える地域もある。そこで、武蔵野市民が地域とどのように関わり、活動しているのかを見ていくことによって、何が地域の活性化につながるのかを知る手がかりになるのではないかと考えた。具体的には、武蔵野市の人々が地域社会にどの程度愛着を持ち、どのように関わっているのか調べることを通して、現代の地域社会とそこに住む人々との繋がりを分析する。

時事通信社「図書館に関する世論調査」によれば、過去1年に、公立図書館を「利用した」人は32%であった（2005年、無作為に選んだ全国20歳以上の男女2,000人、回収率66.4%）。東京、大阪などの15大都市で35%と、その他の市31%や郡・町村32%よりやや高い。性別では男性が30%、女性が34%と前回に続き、女性の方が高い。

また2005年度「武蔵野市の図書館」によれば、武蔵野市の3つの図書館（中央図書館、西部図書館、吉祥寺図書館）で、全図書館の2005年度の1年間の貸し出し件数は、年間287日の開館日で、図書が一般987,166件、児童398,926件、雑誌が9,763件、視聴覚資料が132,652件、合計1,615,807件であった。1日の平均は5,630件である。また、貸出利用登録者は、武蔵野市内13の地区で一般52,129人、児童10,800人、計62,929人である。これは、武蔵野市の人口133,990人のうち47%の方が図書館カードを持っていることになる。

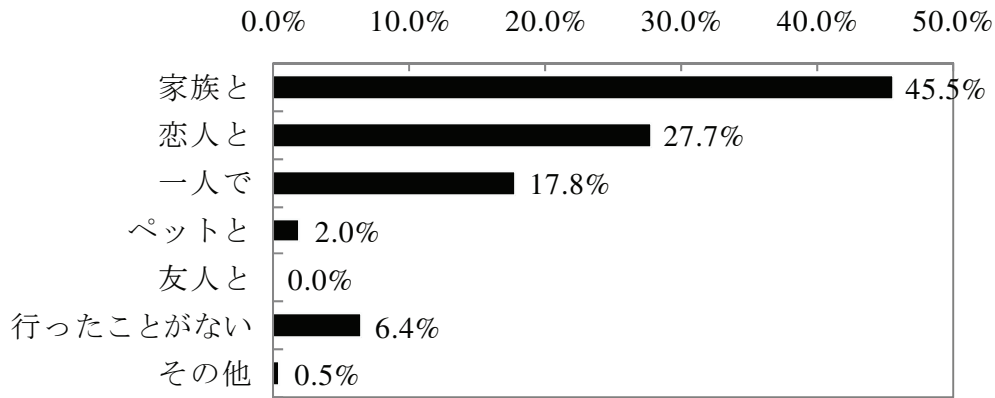
そこで、以下の仮説を立てた。

仮説1：図書館を利用する人ほど、井の頭公園に行くだろう。なぜなら、公共の施設である図書館を利用する人は、公共の施設である公園も同様に利用すると考えられるからである。

仮説2：市への愛着が強いほど、市への満足度は高いだろう。なぜなら、人は満足しているものに愛着を感じるだろうからである。

仮説3：井の頭公園に行く人ほど、市への愛着が強いだろう。なぜなら、地域に密着した公園を利用する人は、地域にたいする愛着も強いと考えられるからである。

仮説4：男性より、女性のほうが自転車利用への不満が多いからだろう。なぜなら、女性の方が、日常生活で地域に密着しているため、不満も多いだろうからである。



井の頭公園にいっしょに行く人



市への愛着、満足



駐輪場への不満

第2節 集計結果

(1)図書館利用

図書館利用について、問2で、「あなたは武蔵野市の図書館を、どれくらい利用しますか」と質問した。選択肢は、「ほぼ毎日」「週数回」「週1回程度」「月1回程度」「それ以下」「利用しない」の6つであった。

全体では、ほぼ毎日が0%、週数回が1.4%、週1回程度が6.3%、月1回程度が22.2%、それ以下が31.9%、利用しないが35.3%であった。月1回程度以下と利用しないが8割を占める。

男女で比べると、男性は女性よりも利用していない。年代別だと、最も利用する年代は60代で週1回程度利用する人が10%、次いで50代の9.3%となっている。それにたいして20代の方は週1回程度の利用が0%となっている。結婚している人は月1回以上利用する人が34.2%

で、未婚者は 24.7%となっている。市内在住年数で比べると、市内に 9 年以下在住している人のうち 41.9%が利用していない。

(2)井の頭公園

井の頭公園への同伴者について問 4 で、「あなたは井の頭公園に、どなたと行くことが多いですか」と質問した。選択肢は「家族と」「友人と」「恋人と」「一人で」「行ったことがない」「その他」の 6 つであった。

全体では、家族が 45.5%、友人が 0%、恋人が 27.7%、一人が 17.8%、行ったことがない人が 6.4%、その他が 0.5%、ペットが 2.0%であった。半数近くの人が家族と答えた。また、予想に反して、友人と答えた人はいなかった。

女性で恋人と行くと答えた人が 38.3%で、男性の 14.1%より多い。年代別では、20 代の人で恋人と行くと答えた人が 56.3%と最も多く、他の年代は 2 割程となっている。結婚している人は、未婚者に比べて家族と行くと答えた人が 71.1%と圧倒的に多い。市内在住年数を比べると、市内在住 10 年以上の人が一人で行くと 21.4%の人が答え、9 年以下の 11.6%よりも 2 倍多い。

(3)愛着

市への愛着について問 7 で、「あなたは友人、知人から『武蔵野市は良いところだ』と言われたら、どのように感じますか」と質問した。選択肢は「とても嬉しい」「嬉しい」「どちらかといえば嬉しい」「特に嬉しくはない」の 4 つであった。

全体では、とても嬉しいと答えた人が 38.3%、嬉しいと答えた人が 42.3%、どちらかといえば嬉しいと答えた人が 17.4%、特に嬉しくはないと答えた人が 2.0%であった。8 割近くの人がとても嬉しい、もしくは嬉しいと答えている。どちらかといえば嬉しい人を含めると、ほぼ全員となる。

男女で比べると、女性は男性よりも市への愛着を感じている。年代別では、全年代において 7 割以上の人が市に愛着を感じている。結婚している人は、既婚、未婚に関わらず、両方の 8 割の人が市に愛着を感じている。市内在住年数を比べると、住んでいる年数に関わらず、8 割の人が市に愛着を感じている。

(4)満足

市への満足について問 8 で、「あなたは現在、武蔵野市に住んでいることにどれくらい満足していますか」と質問した。選択肢は「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の 4 つであった。

全体では、満足していると答えた人が 42.3%、どちらかといえば満足していると答えた人が 48.8%、どちらかといえば満足していないと答えた人が 7.0%、満足していないと答えた人が 2.0%であった。9 割の人が武蔵野市に満足している、もしくはどちらかといえば満足していると答えた。

男女で比べると、男性は女性よりも市への満足度がやや高い。年代別では、40 代が満足し

相関係数（*は有意確率 5%未満）

	図書館利用	市への愛着	市への満足
図書館利用			
市への愛着	0.10		
市への満足	0.04	0.45*	

ていると答えた人が 52.3%と最も多く、他の年代もすべて 3 割以上の人が満足していると答えている。結婚している人は、満足していないと答えた人が 0%であった。市内在住年数を比べると、住んでいる年数に関わらず、9 割の人が「どちらかといえば満足している」「満足している」と答えた。

(5)駐輪場

駐輪場の不満について問 13 で、「武蔵野市の自転車駐輪場について、何か不満はありますか。（最も重視するもの 1 つ）」と質問した。選択肢は「料金が高い」「狭い」「駐輪場が少ない」「駐輪場を利用しない」「その他」の 5 つであった。

全体では、多い順に、駐輪場が少ない 37.2%、狭い 7.5%、料金が高い 6.0%であった。不満がない人は 3.0%いた。なお、駐輪場を利用しない人は 44.7%いた。半数近くの人が駐輪場を利用しないと答えたが、利用する人の多くが駐輪場の少なさに不満を持っている。

男性は 52.9%が駐輪場を利用しないと答え、女性の 38.4%より多い。年代別では 40 代の人駐輪場が少ないと 52.3%の人が答えており、最も多い。結婚している人は、駐輪場が少ないと答えた人が 48.2%で、未婚者の 22.4%よりも 2 倍以上多い。市内在住年数を比べると、市内在住 9 年以下の人が駐輪場を利用しないと 50%の人が答えている。

第 3 節 考察

図書館利用と市への愛着、市への満足の関連は、表のとおりであった。図書館利用は 6 つの値で市への愛着は 4 つの値、市への満足は「満足している」「どちらかといえば満足している」、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」をまとめた 2 値で分析した。

市への愛着と図書館利用とは、有意な関連はなかった。つまり、市への愛着に関係なく、図書館は利用されている。これはおそらく図書館を利用する理由としては、地理的に近いからや、本が好きであることであるから、直接市への愛着には関係ないと言えるからであろう。

市への満足度と図書館利用とは、有意な関連はなかった。これはおそらく市への満足度に関係なく、図書館は利用されているからであろう。これも愛着と同じように、図書館がどの地域にもあり、その市独特のものではないので、市への満足度を決定する要因にはならないからと思われる。

とはいえ、市への満足度が高いほど、有意に市への愛着も強かった。これはおそらく交通の便がよい、自然が豊かである、子育て環境に適しているなど、住み心地が良いと感じられると、市への愛情も強くなるためであろう。

第4節 まとめ

まず、仮説1「図書館を利用する人ほど、井の頭公園に行くだろう」は、否定された。これは、本が好きな人は室内で過ごすことが多く、公園に行くことを好まないからと考えられる。

つぎに、仮説2「市への愛着が強いほど、市への満足度は高いだろう」は、肯定された。これはおそらく住み心地が良いと感じると、市への愛情も強くなるためであろう。

仮説3「井の頭公園に行く人ほど市への愛着が強いだろう」は、条件付で肯定された。その条件とは、「家族と井の頭公園に行く」ことである。なぜなら、井の頭公園に家族と行くということは、家庭円満を表していると思われるので、家庭の幸せが市への愛着に繋がるのであろう。

仮説4「男性より、女性のほうが自転車利用の不満が多いだろう」は、否定された。自転車利用への不満は、男女間では関連がなく家族で井の頭公園に行くことと関連があった。なぜなら、家族で行動を共にすることが多いと、自転車利用も家族単位だと考えられるので、不満も家族単位なのであろう。

そして、「図書館に行く人は節約家なので、駐輪場の料金が高いと思う」という予想していなかったストーリーもできた。図書館利用と駐輪場への不満との間には、関連がないと考えていたが、実際は関連が見られた。なぜなら、無料で利用できる図書館を利用する人は、お金にたいして厳しいと思われるので、駐輪場の料金への不満もあるのだろう。

全体的には、武蔵野市民は市にたいして愛着を少なからず持っており、満足もしている。武蔵野市は交通の便が良い、福祉政策が進んでいる、環境に恵まれているなど、バランスの取れた生活しやすい都市と言える。他の地域でも、住んでいる地域への愛着を住民がもつことが、地域活性化につながっていくのだろう。

第2章 家族

望月彩圭（班長）、後藤田義人（副班長）、富澤一恵、宮城島苑子、渡辺恵

第1節 問題関心

この章では、人びとが家族の間でどのようにコミュニケーションをしているのかを検討する。なぜなら、核家族の増加などによって、家族とのコミュニケーションが不しているのではないかと指摘されているからである。この章では、家族間での旅行頻度、夕食頻度、テレビ視聴頻度、買物頻度、会話頻度を分析する。

内閣府の国民生活に関する世論調査（2001年）において、家庭はどのような意味を持っているか尋ねたところ（複数回答）、「家族の団らん（62.5%）」の割合がもっとも高く、以下、「休息・やすらぎ（59.4%）」、「家族の絆（きずな）を強める場（34.0%）」の順となっており、精神的つながりを重視する人の割合は高い。また、充実感を得る時として、家族の団らんの時をあげる人の割合が一番高く、日常の生活においても家族の精神的つながりを重視する傾向があることがわかる。

しかし、NHK放送文化研究所の国民生活時間調査（2000年）によると、父母がともに勤め人で中学生と小学生の子どもがいる家庭において、平日に家族それぞれの起床在宅率がすべて50%を超える時間帯は20時台と21時台だけである。また、多くの時間帯でこの10年で起床在宅率が低下している。このように、家族が一緒に過ごす時間が短くなってきている。

そして、このように家族が一緒に過ごす時間が減少していることは、親子の絆に関する意識にたいしても影響を及ぼしている可能性がある。国民生活選好度調査によると、「親子の絆が弱まってきている」という考え方について、そう思う人の割合は61%となっている（内閣府「国民生活白書」2005年より）。

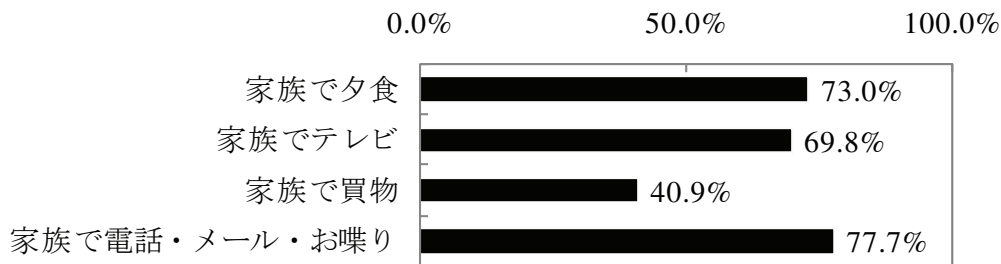
そこで、以下の仮説を立てた。

仮説1：家族の仲が良いと、家族で旅行によく行くだろう。なぜなら、日頃、一緒にテレビを見たり、夕食を食べることが少なくても、家族と旅行することで、それらの時間を持つことができるからである。

仮説2：会話をよくする人ほど、一緒に夕食をとるだろう。なぜなら、夕食の場は、家族にとって会話をするのに適した時間であるからである。

仮説3：家族と夕食をとる人ほど、同じ場に居合わせる機会が増えるため、一緒にテレビを見るだろう。

仮説4：家族間の絆が強いと、一緒に買物に行くことも多いし、旅行にもよく行くだろう。



家族との関わり（週一回以上の人の割合）

第2節 集計結果

(1)家族旅行

家族での旅行について問 19 で、「この一年間で、ご家族（どなたでも）と、旅行に行きましたか（日帰り含む）。同居していないご家族も含めてお答えください」と質問した。選択肢は、0 回、1 回、2 回、3 回、4 回以上の 5 つであった。家族旅行では 0 回と答えた人が 0.5%、1 回が 23.8%、2 回が 23.3%、3 回が 19.9%、4 回以上が 19.4%であった。未婚・既婚で比較すると、全体では年に 1 回以上家族旅行する人は 75.1%であったのにたいし、既婚者の中では 86.9%、未婚者の中では 59.3%と差がひらいた。

(2)夕食

引き続き問 20 では「あなたは以下のことを、ご家族（どなたでも）と、することはありますか。同居していないご家族も含めてお答えください（それぞれ 1 つ選択）」と、(ア) 夕食を一緒に食べる、(イ) テレビを一緒に見る、(ウ) 買い物に一緒に行く、(エ) 電話、メール、お喋りをする、の 4 項目について質問した。選択肢は「ほぼ毎日」「週数回」「週 1 回程度」「月 1 回程度」「それ以下」「全くしない」の 6 つである。

夕食を一緒に食べるかについて、全体の回答は、ほぼ毎日が 41.6%、週数回が 21.6%、週 1 回程度が 9.8%、月 1 回程度が 7.4%、それ以下が 5.4%、全くしないが 14.2%であった。年齢別で見ると、ほぼ毎日と回答している人が 20 代 25.0%、30 代 29.4%、40 代 55.8%、50 代 48.8%、60 代 48.4%、と 40 代から上の年代では半数近くの人が、ほぼ毎日家族と一緒に夕食を食べると回答した。また、ほぼ毎日と回答したのは、既婚者では 60.0%にたいして、未婚者では 16.7%と大きく減った。

(3)テレビ

テレビを一緒に見るかについて、全体では、ほぼ毎日が 42.1%、週数回が 20.3%、週 1 回程度が 7.4%、月 1 回程度が 6.9%、それ以下が 7.9%、全くしないが 15.3%であった。年齢別で見ると、ほぼ毎日と回答している人が全体の 42.3%にたいし、20 代 25.0%、30 代 31.4%、40 代 53.5%、50 代 46.3%、60 代 58.6%、と 40 代から上の年代では半数近くの人が、ほぼ毎日家族と一緒にテレビを見ると回答した。また既婚・未婚で比較すると、ほぼ毎日と回答し

相関係数 (*は有意確率 5%未満、**は 1%未満)

	家族で旅行	家族で夕食	家族でテレビ	家族で買物	家族で会話
家族で旅行					
家族で夕食	0.40**				
家族でテレビ	0.32**	0.80**			
家族で買物	0.30**	0.48**	0.49**		
家族で会話	0.28**	0.59**	0.54**	0.46**	

たのは、既婚者では 59.6%、未婚者では 18.1%と差が開いた。

(4)買物

買物と一緒にいくかは、全体だと、ほぼ毎日が 4.8%、週数回が 18.7%、週 1 回程度が 17.2%、月 1 回程度が 24.1%、それ以下が 16.7%、全くしないが 18.2%であった。男女間においては大きな差が見られなかった。が、既婚・未婚で比較すると、全くしないのは既婚者 4.4%にたいして、未婚者 38.6%と大きく差があった。

(5)電話

電話、メール、お喋りをするかについて、全体ではほぼ毎日が 47.5%、週数回が 18.3%、週 1 回程度が 11.9%、月 1 回程度が 10.4%、それ以下が 6.4%、全くしないが 5.4%であった。ここでも男女においては大きな差は見られないが、既婚・未婚で比較すると、ほぼ毎日と全体で回答した 48.2%にたいし、既婚者では 61.9%、未婚者では 29.8%と差が開いた。

第 3 節 考察

これらの関連は、表のとおりであった。家族旅行は値を年間回数に、それ以外では月間回数に直して分析した。

すべての項目の間で、有意な関連があった。家族と一緒に夕食をとる人ほど、有意に家族と一緒に旅行にも行き、買物にも行く。これはおそらく、家庭内で家族と一緒に過ごす時間が持ちやすい人は、家庭外でも家族と一緒に過ごす機会を持ちやすいだろう。また、家族と一緒に夕食をとる人ほど、有意に家族と一緒にテレビを見たり、会話をする頻度が高い。これはおそらく、家族と同じ場に居合わせる機会が多いためであろう。

これらから、各項目それぞれでつながりがあるといえるだろう。家庭内で家族と時間を過ごす機会の多い人は、家の内外を問わず共に行動する機会が多いようである。

第 4 節 まとめ

以上から、家族と一緒に時間を過ごす人と過ごさない人との差が、顕著に表れていた。ま

た、既婚者と未婚者の間にも差が大きいことがわかった。

50代から60代の既婚の女性は、家族と夕食をとることが多かった。対照的に、30代から40代の未婚の男性は、家族と夕食をとることが少なかった。また、たとえ一人暮らしであっても、休日に家族旅行や家族との買物に行くことで、家族間のコミュニケーションをとっている人もいるということがわかった。

しかし、家族会話の調査結果を見ると50代、60代の既婚女性も、30代、40代の未婚男性も回数の点ではさほど違いがあるわけではない。家族間での会話頻度は、性別や年齢に関連はないのである。

実際、人々の家族間のコミュニケーションについては、多くとる人ほど家族旅行では4回以上、家族夕食、家族テレビ、家族買い物、家族会話ではほぼ毎日の回答がそれぞれ得られた。一方、1つの項目で0回、または全くしないと回答した人はその他の項目においても0回、または全くしなかった。

したがって、家族とのコミュニケーションをとる頻度が多い人と、少ない人に二極化していることがわかった。今後は、どうすればこうした格差を縮小できるのかを考えることが、それぞれの家族にとっても、地域にとっても必要となってくるだろう。

第3章 食事

大久保剛（班長）、宇賀神早苗（副班長）、桑原美波、矢頭かほり

第1節 問題関心

この章では、人々が食事に関してどのような意識を持っているのかを検討する。なぜなら、食というのは生物が生きていく上で欠かせないものであり、私たちの生活において切っても切れないものだからである。近年では、BSE（牛海綿状脳症）や鳥インフルエンザなどが蔓延したことで、社会全体で食への関心が高まっている。ダイエットや健康への関心は、すでにブームというよりは、社会に定着している。そこでこの章では、食品・外食において人々が何を重視しているかと、外食回数について分析する。

厚生労働省「国民栄養調査」（2000 年）によると、栄養や食事について「まったく考えない」や、「あまり考えない」人の割合は、男性の 15～29 歳で約 5 割、30 歳以上で約 3 割、女性の 15～29 歳で約 4 割、30～69 歳で約 1 割、70 歳以上で約 2 割である。男女ともに、年齢が上がると栄養・食事に関して関心が高まっている。また、男性より女性のほうが、自分の健康づくりのために栄養や食事についてよく考えている。外食頻度は 20～59 歳の男性で高く、3 割の人はほぼ毎日 1 回以上利用している。女性は男性よりも利用頻度が低いが、ほぼ毎日外食する人は 20 歳代で多いことがわかった。

そこで、以下の仮説を立てた。

仮説 1：食品の品質を重視する人は、生活にゆとりがあるため、外食においても味を重視し中身にこだわるだろう。

仮説 2：食品の品質を重視する人は、素材がより確かなものを意識するので、外食回数が少ないだろう。

仮説 3：食品や外食の安さを重視する人は、出費を控えたいので、外食回数が少ないだろう。

仮説 4：外食において安さを重視する人は、中身よりもいかに出費をなくすかが大事なので、味やサービスにはこだわらないだろう。

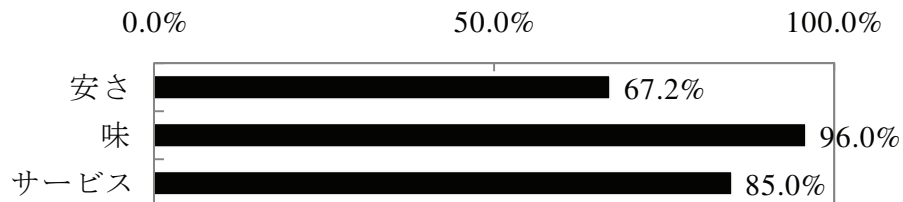
第2節 集計結果

(1)食品の安さ

食品について問 22 で、「ご家庭で食品を購入するとき、以下のことはどれくらい重視しますか（一人暮らしの方はご自身について）」と、「値段の安さ」「品質」「安全性」について質問した。選択肢は「重視する」「どちらかといえば重視する」「どちらかといえば重視しない」



食品購入時に重視すること



外食で重視すること

「重視しない」の4つであった。

問 22 アで「値段の安さ」について聞いた。全体では、重視すると答えた人が 38.4%、どちらかといえば重視するが 48.5%、どちらかといえば重視しないが 11.2%、重視しないが 1.9%であった。重視するとどちらかといえば重視するをまとめると 86.9%いるので、約 9 割の人が外食のとき値段の安さを重視するということになる。

男女で比べると、女性は男性より安さを重視する。年代別だと、60 代で 90.7%が重視する方ともっとも多く答えていて、40 代の 81.4%がもっとも少なかった。結婚している人は、重視する方が 86.2%と、していない人の 89.4%と比べて低かった。市内在住年数を比べると、10 年以上の人のうち 86.5%が重視する方と答えていて、9 年以下の人では 89.6%と増えている。

(2)食品の品質

問 22 イでは「品質」について聞いた。その全体では、重視すると答えた人が 68.0%、どちらかといえば重視するが 29.6%、どちらかといえば重視しないが 1.5%、重視しないが 1.0%であった。重視するとどちらかといえば重視するをまとめると、97.6%いるので、ほとんどの人が食品を購入するとき、品質を重視するということになる。

男女で比べると、重視する方をまとめるとほとんど差は出なかったが、重視するだけを見ると、男性は女性より低かった。年代別だと、20、40、50 代では重視しないとほとんど重視しないと答えた人が誰もいなかった。結婚している人、していない人に関わらず、重視する方が 97.6%、97.5%と非常に高かった。市内在住年数を比べても、9 年以下の人でも 10 年以上の人でも、97.6%、97.3%が重視する方と答えていて、ほとんど変わらなかった。

(3)食品の安全性

問 22 ウでは「安全性」について聞いた。その全体では、重視すると答えた人が 65.7%、どちらかといえば重視するが 29.5%、どちらかといえば重視しないが 3.4%、重視しないが 1.4%

であった。重視するとどちらかといえば重視するをまとめると、95.2%いるのでほとんどの人が食品を購入するとき、安全性を重視するということになる。

男女で比べると、重視する方をまとめるとほとんど差は出なかったが、重視するだけを見ると、男性は女性より低かった。年代別だと、50代では重視しないとほとんど重視しないと答えた人が誰もいなかった。結婚している人は、重視する方が96.5%と、していない人の93%と比べてやや高かった。市内在住年数を比べると、9年以下の人のうち93.0%が重視する方と答えているのにたいして、10年以上の人では重視する方が96.4%とやや増えている。

(4) 外食回数

外食の頻度について問23で、「ご家族での外食は、どれくらいしますか（一人暮らしの方はご自身について）」と質問した。選択肢は「ほぼ毎日」「週数回」「週1回程度」「月1回程度」「それ以下」「外食しない」の6つであった。

全体ではほぼ毎日が8.2%、週数回が14.5%、週1回程度が30.0%、月1回程度が28.0%、それ以下が15.0%、外食しないが4.3%であった。

男女で比べると、男性は週1回程度が26.7%にたいして、女性は32.8%と男性より高かった。年齢別だと50代では外食しない人は誰もいないのにたいして、60代ではほぼ毎日外食する人は誰もいなかった。結婚していない人はほぼ毎日外食するが17.4%にたいして、結婚している人はわずか1.7%と非常に低く、外食が週数回の選択肢を見ても、結婚していない人は24.4%にたいし、結婚している人は、6.9%と低かった。市内在住年数を比べると10年以上の人のうち5.4%がほぼ毎日外食すると答えているのにたいして、9年以下の人ではほぼ毎日外食するが12.8%と増えている。また、週1回程度外食するという選択肢では、10年以上の人の22.5%にたいして、9年以下の人は39.5%であった。

(5) 外食での安さ

外食について問24で、「ご家族で外食をするとき、以下のことはどれくらい重視しますか（一人暮らしの方はご自身について）」と、「値段の安さ」「味の良さ」「サービス」について質問した。選択肢は「重視する」「どちらかといえば重視する」「どちらかといえば重視しない」「重視しない」「外食しない」の5つであった。

問24アでは「値段の安さ」について聞いた。その全体では、重視すると答えた人が15.7%、どちらかといえば重視するが51.5%、どちらかといえば重視しないが22.2%、重視しないが10.3%であった。重視するとどちらかといえば重視するをまとめると67.2%いるので、約7割弱の人が外食のとき値段の安さを重視するということになる。

男女で比べると、女性は男性より安さを重視する方である。年代別だと、30代で74.5%が重視する方と答えていてもっとも多く、60代では60.0%がもっとも少なかった。結婚している人は、重視する方が70.2%と、していない人の62.8%と比べて高かった。市内在住年数を比べると、10年以上の人のうち64.8%が重視する方と答えていて、9年以下の人では71.8%と増えている。

相関係数 (*は有意確率 5%未満、**は 1%未満)

	食品の 安さ重視	食品の 品質重視	外食回数	外食での 安さ重視	外食での 味重視	外食でのサ ービス重視
食品の安さ重視						
食品の品質重視	0.05					
食品の安全重視	0.01	0.68**				
外食回数	-0.09	-0.04				
外食での安さ重視	0.51**	0.08	-0.05			
外食での味重視	0.04	0.44**	-0.15*	0.01		
外食でのサービス重視	-0.09	0.32**	-0.05	-0.09	0.46**	

(6)外食での味

問 24 イでは「味の良さ」という項目では、重視すると答えた人が 64.9%、どちらかといえ
ば重視するが 31.1%、どちらかといえ重視しないが 3.0%、重視しないが 1.0%であった。重
視するとどちらかといえ重視するをまとめると、96.0%いるので、ほとんどの人が外食のと
き味の良さを重視するということになる。

男女で比べると、女性は男性より重視すると答えた人が非常に多い。年代別だと、40 代で
は重視しないとほとんど重視しないと答えた人が誰もいなかった。結婚している人は、重視
する方が 98.2%と、していない人の 92.9%と比べて高い。市内在住年数を比べると、9 年以下
の人のうち 95.3%が重視する方と答えていて、10 年以上の人では 96.3%とほとんど変わらな
かった。

(7)外食でのサービス

問 24 ウでは「サービス」について聞いた。全体では重視すると答えた人が 35.1%、どち
らかといえ重視するが 49.9%、どちらかといえ重視しないが 11.9%、重視しないが 3.0%で
あった。重視するとどちらかといえ重視するをまとめると、85.0%いるので多くの人がサー
ビスを重視していた。

男女で比べると、重視する方をまとめるとほとんど差は出なかったが、重視するだけを見
ると、男性は女性より低かった。年代別だと、30 代で 90.2%が重視する方と答えていてもっ
とも多く、60 代の 80.0%がもっとも少なかった。結婚している人は、重視している方が 92.1%
と、していない人の 75.3%と比べて極めて高い。市内在住年数を比べると、9 年以下の人の
うち 83.5%が重視する方と答えているのにたいして、10 年以上の人では重視する方が
86.3%とやや増えている。

第 3 節 考察

それぞれの問いとの関連は表のとおりであった。食品の安さ、品質、安全と外食の安さ、
味、サービスは 4 つの値で、外食回数は月の回数にして分析した。

食品の品質を重視する人ほど、有意に外食の味を重視する。したがって、仮説 1 は肯定された。これはおそらく、食品の品質を重視する人ほど健康志向が高く、食にたいしてより高いお金をかけるためであろう。

食品の品質を重視する人と外食回数には、有意な関連がなかった。したがって、仮説 2 は否定された。これはおそらく、家で食べる場合はより中身の確かなものを意識して食べ、外食の場合は安全や品質にこだわっているお店を選択しているのであろう。

また、食品や外食の安さ重視と外食回数には、有意な関連がなかった。したがって仮説 3 は否定された。これはおそらく、近年ファーストフードなどの比較的金額設定の低いお店が多く出店されてきたために、外食時の値段も下がってきたからであろう。

外食での安さ重視と味重視には、有意な関連がなく、安さ重視とサービス重視にも有意な関連がなかった。したがって、仮説 4 は否定された。これはおそらく武蔵野市民は、安いから味やサービスの質は落ちてよいとは思ってはおらず、それぞれの項目を重視しているためであろう。

第 4 節 まとめ

以上から、外食のサービスを重視する人は、食品の品質や安全性にこだわり、食品の安全を重視する人は、食品の品質を重視するようだ。外食の味を重視する人は食品の安全や品質を重視する。また、外食の味を重視する人や食品の安全を重視する人は、外食回数が減る傾向がある。

食品の安さを重視している人は味や品質よりも、そのものの価格にこだわり、外食も安さを重視し外食自体を控えると社会通念上思われがちだが、有意な関連がないという結果が出た。

そして、武蔵野市民の食への質問項目から食品の安全性への関心は、安全性を重視する人が 95.0%いる。また、食品の品質を重視する人は 97.6%いるので、ほとんどの人が食品を購入するとき、安全性と品質を多くの人が重視しているということになる。近年起きている品質表示偽装事件や BSE 問題、鳥インフルエンザの蔓延など様々な食に関する危機管理問題が多く起きている。このように、日本社会の食への疑念が、武蔵野市民の中にも起きているのであろう。

また、日本は 21 世紀には、ほかのどの国が経験したことのないような超高齢化社会を迎えることになる。高齢者の健康を考えるには、食事が重要だろう。今回の分析から、年を重ねるにつれて食品の品質や安全を重要視している。しかし、高齢まで健康でいられるには、特に若いときの食生活が重要になるだろう。私たち若い世代が、食について真剣に考えていくことが、今後の日本をよりよい高齢社会へと導くのではないかな。

第4章 住宅

鈴木綾乃（班長）、田中千尋（副班長）、徳原千、宮川季実子

第1節 問題関心

この章では、住宅にたいする人びとの意識を検討する。なぜなら、近年は所得格差が広がっているため、人びとの住み方にも格差が表れているかもしれないからである。そこで、住居の形態、駅からの徒歩時間、住居の選択理由、床面積、防犯対策について分析する。

近年日本の住宅事情は大きく変化した。20年前の1983年、住宅の総数は3470万戸であったが、2003年では4686万戸に増加した。中でも一戸建ての住宅は2230万戸から2649万戸へ、共同住宅は933万戸から1873万戸へと増加している（総務省統計局「日本統計年鑑」2004年より）。

また現代社会において、格差の広がりが問題視されている。1984年にはジニ係数は0.27であった（ジニ係数は0に近づくほど平等、1に近づくほど不平等をあらわす）。しかし、2004年には0.31へと上昇した（厚生労働省「2004年度全国消費実態調査」より）。

そこで、以下の仮説を立てた。

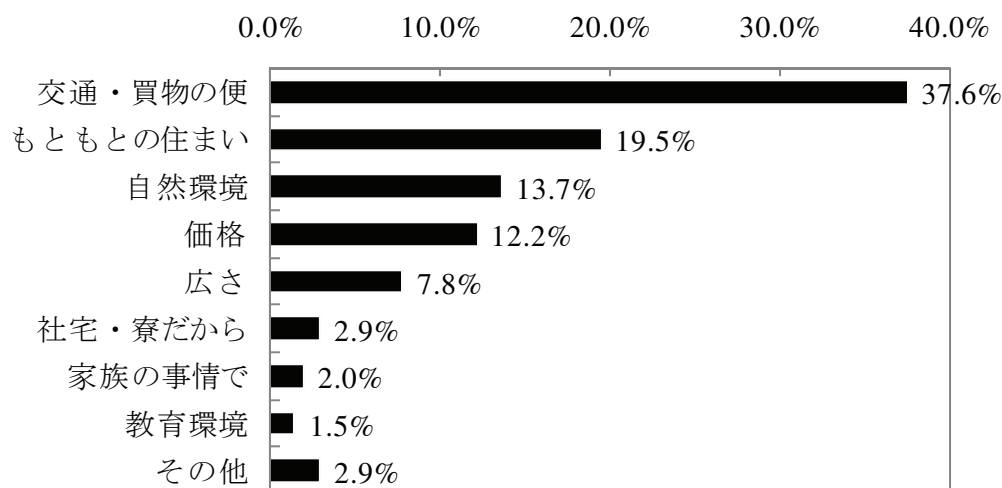
- 仮説 1：持ち家に住んでいる人ほど、経済的に余裕があるので、防犯対策をしているだろう。
- 仮説 2：価格を重視して住宅を選択する人ほど、狭い住宅の方が低価格なため、床下面積が狭いだろう。
- 仮説 3：交通・買い物の便を重視して住宅を選択する人ほど、駅の近くに住んでいるだろう。なぜなら、駅に近ければ交通の便が良く、買い物にも便利だからである。

第2節 集計結果

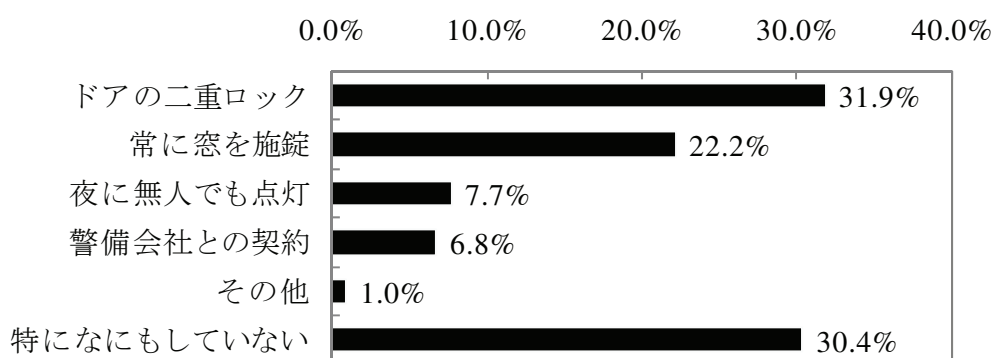
(1)持ち家

持ち家について問 14 で、「あなたのお住まいは借家ですか、持ち家ですか」と質問した。選択肢は「借家、社宅」「持ち家」の2つであった。全体では、借家、社宅と答えた人が51.0%、持ち家が49.0%で、ほぼ半数が持ち家に住んでいるということになる。

男女で比べると、男女共に約5割が持ち家と回答し、差はなかった。年代順にみると、20～30代は約7割が借家、社宅と答えているが、40代以上になると6割以上が持ち家と答えた。結婚している人は、持ち家が57.8%と、していない人の37.6%に比べて高い。市内在住年数を比べると、9年以下の人は持ち家が29.1%しかいないのにたいして、10年以上の人は持ち家が64.9%と倍以上に増えている。



住居の選択理由



防犯対策

(2) 駅までの時間

駅からの徒歩時間について問 15 で、「あなたのお住まいから最寄り駅まで、歩いて何分くらいですか」と質問した。選択肢は「10 分未満」「10～20 分」「21～30 分」「31～60 分」「61 分以上」の 5 つであった。

全体では、10 分未満と答えた人が 44.7%、10～20 分が 30.1%、21～30 分が 24.3%、31～60 分が 1.0%、61 分以上はいなかった。20 分までの回答数を合わせると、75.7%になるので、およそ 8 割の人が駅の徒歩圏内に住んでいることになる。

男女で比べると、男性は女性より 10 分未満の距離に住んでいる人が多いが、全体的な傾向として 10 分未満がもっとも多いことは変わらない。年代別だと、10 分未満と答えたのは 30 代の人がもっとも多く、21～30 分と答えたのは 60 代がもっとも多い。結婚している人は、10 分未満が半分以上の 54.1%を占め、していない人の 39.7%と比べて高い。逆に結婚していない人は 21～30 分が 27.6%であり、している人の 17.6%に比べて高い。市内在住年数を比べると、9 年以下の人のうち 54.7%が 10 分未満と答えているのにたいして、10 年以上の人では 10 分未満と答えた人と 10～20 分と答えた人がそれぞれ 38.7%と 32.4%であり、散らばりがある。

(3)選択理由

住居の選択理由について問 16 で、「今のお住まいは、どのような理由で選びましたか（最も重視したもの 1 つ）」と質問した。全体では多い順に、交通・買い物の便 37.6%、もともと
の住まい 19.5%、自然環境 13.7%、価格 12.2%、広さ 7.8%、社宅・寮 2.9%、家族の事情 2.0%、
教育環境 1.5%、またその他 2.9%であった。

女性は男性よりも、価格を重視する傾向にある。年代別だと 20 代では他の年代より広さ・
価格を重視し、40 代では教育環境を重視し、60 代では自然環境を重視するという回答が多い。
結婚している人は、価格を重視するという回答が 10.5%と、していない人の 14.0%に比べ低い。
市内在住年数を比べると、9 年以下の人のうち 49.2%が価格を重視したと答えているのにたい
し、10 年以上の人では 30.6%と低くなっている。一方 9 年以下の人のうち 3.5%の人がもとも
との住まいだったが、10 年以上の人では 31.5%と高くなっている。

(4)広さ

床面積について問 17 で、「あなたのお住まいの『床面積』はどのくらいですか。庭・ベラ
ンダは含めないでください」と質問した。平方メートル、または坪で回答してもらった。

全体では、0～49 平方メートルの間であると答えた人が 29.4%、50～99 平方メートルの間
であると答えた人が 51.7%、100～149 平方メートルの間であると答えた人が 13.3%、150～199
平方メートルの間であると答えた人が 5.6%であった。よって、8 割以上の人が 99 平方メー
トル以下の床面積であると言える。

年代別だと 20 代は 0～49 平方メートルと答えた人が一番多く、他の年代は 50～99 平方メ
ートルと答えた人が一番多かった。結婚している人は、50～99 平方メートルと答えた人が
67.0%と、していない人の 31.5%と比べて多い。

(5)防犯

防犯対策について問 18 で、「防犯対策は、何か行っていますか」と質問した。全体では、
多い順にドアの二重ロック 31.9%、常に窓を施錠 22.2%、夜に無人でも点灯 7.7%、警備会社
と契約 6.8%、その他が 1.0%であった。ただし、特に何もしていない人が 3 割を占めた。

男女で比べると、女性がドアの二重ロックをする人が 20.8%と最も多く、男性が特に何も
していない人が 12.4%と最も多かった。しかしながら、女性で特に何もしていない人が 16.8%
おり、散らばりが見られる。年代別だと、20 代で 56.3%が特に何もしていないと答えており、
圧倒的に多い。逆に、年代が上がるにつれ特になにもしていないと答える人は減り、ドアの
二重ロックや常に窓を施錠するという人が多くなる。結婚している人は、ドアの二重ロック
が 35.3%と最も多く、次いで特に何もしていない人が 22.4%であった。一方で、結婚してい
ない人は特に何もしていない人が 38.4%と最も多く、次いでドアの二重ロックが 27.9%とな
った。市内在住年数を比べると、9 年以下の人のうち、最も多かったのは 38.4%の特に何もして
いないという答えにたいして、10 年以上の人はドアの二重ロックが 38.4%と一番多かった。

相関係数 (*は有意確率 5%未満、**は 1%未満)

	持ち家	駅徒歩時間	交通・買い物の便	価格	床面積	防犯対策ない
持ち家						
駅徒歩時間	-0.14*					
交通・買い物の便	-0.07	-0.35**				
価格	-0.22**	0.22**	-0.29**			
床面積	0.59**	0.08	-0.19**	-0.25**		
防犯対策ない	-0.35**	-0.01	0.06	0.05	-0.25**	

第3節 考察

これらの関連は、表のとおりであった。持ち家に住んでいる人ほど、有意に何らかの防犯対策をしている。したがって仮説 1 は肯定された。これはおそらく、持ち家の人ほど経済的に余裕があるためだろう。

また、価格を重視して住居を選択する人ほど、有意に床下面積が狭い。したがって、仮説 2 は肯定された。

交通・買い物の便を重視して住居を選択する人ほど、有意に駅の近くに住んでいる。したがって、仮説 3 も肯定された。

第4節 まとめ

以上から、経済的に余裕があると、床下面積が広く、持ち家であり、何かしらの防犯対策を行っていることが分かった。また、住居の価格を重視して住居を選択する人ほど、価格が低く駅から遠い住居を選択しており、そして、もともとの住まいに住んでいる人ほど、持ち家であることが分かった。このように、第1節で立てた仮説は全て正しかった。したがって、現代社会の格差についての実態は予想通りだったと言える。

今回の調査で私達は、格差を経済的な差であると捉え、格差の広がり原因となって住居の実態に影響を及ぼしていると考えた。したがって、希望通りの住居を選択する余裕があるかどうかということと、その希望が実情に即しているかということの関連を調べた。

今回の分析で、経済的格差が住居に影響を及ぼしていることが分かった。これは、経済的な格差が、社会的な格差へと広がっていることを暗示している。ジニ係数の増加率を見ると、これからも社会格差は広がることが予想される。格差の広がり止めることができないかもしれないが、私たちには何かしらの対応を迫られているのだろう。

第5章 地域活動

田中彩起子（班長）、岡田晴樹（副班長）、奥山奈央子、坂井裕美

第1節 問題関心

この章では、武蔵野市民が地域においてどのような活動をしているのかを検討する。なぜなら、都市化の進む地域では、従来の地縁的なつながりがなくなりつつあるかもしれないからである。そこでこの章では、自治会参加、同窓会参加、市内の人との相談、市内への年賀状、市外の人との相談、市外への年賀状を分析する。

今日の競争社会のもとで、地域では人間疎外を生みだし、人々の生活の中に孤立と自己防衛意識を強めさせている（山村丈夫『地域コミュニティ論』2003年、自治体研究社）。たとえば、歩いて20分以内の徒歩圏での付き合いについて、「知り合いは多い」「ある程度知り合いはいる」が合わせて33.8%であるのにたいし、「知り合いは少ない」「ほとんどまたはまったく知り合いはいない」が合わせて66.3%いて、さらに人口密度が高くなるほど近所付き合いが薄くなる傾向にある。地域活動への参加状況についても、町内会・自治会41.1%、地域のサークルやクラブ10.1%、行政協力ボランティア3.4%、まったく参加や活動はしていない50.0%と、徐々に住民の組織の加入率や、活動の参加率が低下してきている（国土交通省「大都市圏におけるコミュニティの再生・創出に関する調査」2005年より）。

では、武蔵野市に住む人々は、地域とどの程度かかわりをもっているのか、また、どのような人間関係のネットワークを築いているのだろうか。

こうしたことを考えるために、以下の仮説を立てた。

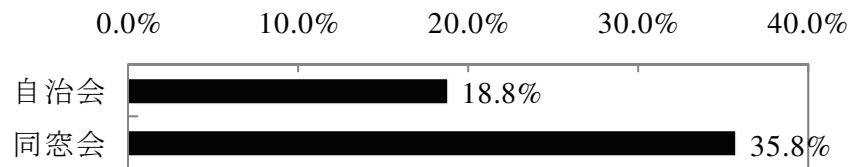
仮説1：自治会に参加しているほど、外に出て人と交流することが好きだろうから、同窓会にも参加しているだろう。

仮説2：自治会に参加しているほど、市内の人と相談しあっているだろう。なぜなら、地域に関心を持ち、近所付き合いを大切にするだろうからである。

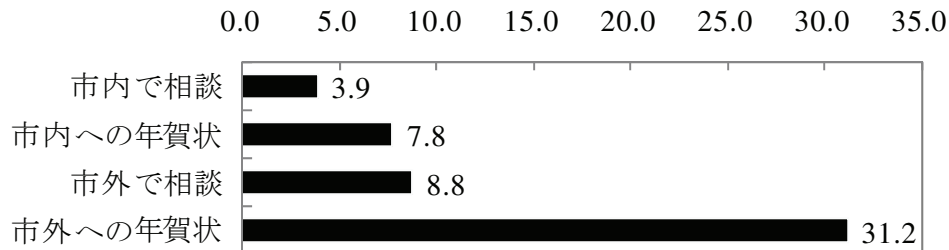
仮説3：同窓会に参加しているほど、市外の人に年賀状を送っているだろう。なぜなら、年賀状を出す同窓生が市外に住んでいることが多いだろうからである。

仮説4：市内の人と相談しているからといって、市外の人と相談しているわけではないだろう。なぜなら、主に市内の友人と親しくしているだろうからである。

仮説5：市外へ年賀状を出しているからといって、市内へ年賀状を出しているわけではないだろう。なぜなら、主に市外の友人と親しくしているだろうからである。



地域活動参加者の割合



付き合いの平均人数

第2節 集計結果

(1)自治会

自治会参加について問3アで、「あなたは、自治会・コミュニティセンターの行事にどれくらい参加していますか」と質問した。選択肢は、「ほぼ毎回参加する」「半分以上参加する」「半分も参加しない」「ほぼ参加しない」の4つであった。

全体では、少しでも参加すると答えた人が18.8%、参加しないと答えた人が81.2%であった。男女で比べると、参加する人は男性が16.5%、女性が20.9%で男性よりも女性の方がやや参加する人が多い。年代別だと、年配の人ほど自治会に参加する人が多いが、60代の43.3%は他の年代に比べて大幅に高い。結婚している人は、参加する人が27.2%と、結婚していない人の8.1%と比べて高い。市内在住年数を比べると、9年以下の人は15.1%が参加すると答えているのにたいして、10年以上の人は22.3%が参加しており、市内在住年数が高いほど自治会に参加する人が多い。

(2)同窓会

同窓会参加について問3イで、「あなたは、市内外の同窓会・クラス会にどれくらい参加していますか」と質問した。選択肢は、自治体と同じ4つである。

全体では、少しでも参加すると答えた人が35.8%、参加しないと答えた人が64.2%であった。男女で比べると、参加する人は男性が37.6%、女性が34.2%で女性よりも男性の方がやや参加する人が多い。年代別だと、50代が48.8%で最もよく参加をしており、その他の世代は30%近くで均衡している。結婚している人は、参加する人が38.9%と、結婚していない人の31.4%と比べてやや高い。市内在住年数を比べると、9年以下の人は34.9%が参加すると答えている

のにたいして、10 年以上の人は 36.0%が参加しており、市内在住年数の違いによる差はほとんど見られない。

(3)市内で相談

市内でどれくらい相談するかについて問 5 アで、「あなたには、いろいろなことを相談しあう方が、武蔵野市内に何人くらいいますか」と質問した。選択肢は、問 5 と問 6 共通で、0 人、1～5 人、6～10 人、11～50 人、51 人以上の 5 つであった。平均を求めるときは、51 人以上を 60 人とした。

全体では、0 人と答えた人が 33.7%、1～5 人が 54.8%、6～10 人が 7.0%、11～50 人が 3.5%、51 人以上が 1.0%であった。平均すると、3.9 人となった。

男女で比べると、市内相談者数は男性が平均 3.6 人、女性が平均 4.1 人で男性よりも女性の方がやや相談する人数が多い。年代別だと、年配の人ほど市内に相談する人が多いが、50 代のみ 30 代と市内相談者数が近い。結婚している人は、市内相談をする人が平均 5.0 人と、結婚していない人の平均 2.4 人と比べてやや高い。市内在住年数を比べると、9 年以下の人は市内に平均 3.5 人相談する人がいるのにたいして、10 年以上の人は平均 4.2 人相談しており、市内在住年数が長いほど市内相談をする人が多い。

(4)市内への年賀状

市内への年賀状について問 5 イで、「あなたには、年賀状・年賀メールを送る方が、武蔵野市内に何人くらいいますか」と質問した。全体では、0 人と答えた人が 30.8%、1～5 人が 42.8%、6～10 人が 11.9%、11～50 人が 10.4%、51 人以上が 4.0%であった。平均すると、7.8 人であった。

男女で比べると、市内に年賀状を送る人数は男性が平均 6.1 人、女性が平均 9.1 人で男性よりも女性の方が市内に年賀状を送る人数が多い。年代別だと、年配の人ほど市内に年賀状を送る人数が多いが、50 代のみ 30 代と年賀状を送る人数に近い。結婚している人は、市内に年賀状を送る人が平均 10.1 人と、結婚していない人の平均 4.7 人と比べて高い。市内在住年数を比べると、9 年以下の人は市内に平均 5.7 人年賀状を送る人がいるのにたいして、10 年以上の人は平均 9.5 人年賀状を送っており、市内在住年数が長いほど市内に年賀状を送る人が多い。

(5)市外で相談

市外でどれくらい相談するかについて問 6 アで、「あなたには、いろいろなことを相談しあう方が、武蔵野市外に何人くらいいますか」と質問した。全体では、0 人と答えた人が 6.0%、1～5 人が 53.0%、6～10 人が 26.0%、11～50 人が 13.0%、51 人以上が 2.0%であった。平均すると、8.8 人となった。

男女で比べると、市外相談者数は男性が平均 10.7 人、女性が平均 7.4 人で女性よりも男性の方が市外に相談する人数が多い。年代別だと、40 代が平均 11.7 人と市外に相談する人数が最も多く、他の世代に関しては平均 8 人のあたりで均衡している。結婚している人は、市外

相関係数 (*は有意確率 5%未満、**は 1%未満)

	自治会参加	同窓会参加	市内で相談	市内への年賀状	市外で相談	市外への年賀状
自治会参加						
同窓会参加	0.18*					
市内で相談	0.21**	0.07				
市内への年賀状	0.31**	0.18*	0.57**			
市外で相談	-0.01	0.01	0.54**	0.21**		
市外への年賀状	0.10	0.14	0.17*	0.26**	0.33**	

に相談をする人が平均 9.9 人と、結婚していない人の平均 7.3 人と比べてやや高い。市内在住年数を比べると、9 年以下の人は市外に平均 8.7 人相談をする人がいるのにたいして、10 年以上の人は平均 8.9 人相談をしており、市内在住年数の違いによる差はほとんど見られない。

(6)市外への年賀状

市外への年賀状について問 6 イで、「あなたには、年賀状・年賀メールを送る方が、武蔵野市外に何人くらいいますか」と質問した。全体では、0 人と答えた人が 3.0%、1～5 人が 10.4%、6～10 人が 16.9%、11～50 人が 40.8%、51 人以上が 28.9%であった。平均すると、31.2 人となった。

男女で比べると、市外に年賀状を送る人数は男性が平均 34.1 人、女性が平均 28.9 人で女性よりも男性の方が市外に年賀状を送る人数が多い。年代別だと、20 代・30 代にかけて徐々に市外に年賀状を送る人が増加し、40 代で平均 41.3 人とピークを迎えるが、40 代を過ぎると徐々に年賀状を送る人が減少していく。結婚している人は、市外に年賀状を送る人が平均 34.9 人と、結婚していない人の平均 26.0 人と比べて高い。市内在住年数を比べると、9 年以下の人は市外に平均 32.0 人年賀状を送る人がいるのにたいして、10 年以上の人は平均 30.6 人年賀状を送っており、市内在住年数が短い人ほど、市外に年賀状を送る人がやや多い。

第 3 節 考察

自治会参加と同窓会参加、市内の人との相談、市内への年賀状、市外の人との相談、市外への年賀状との関連は表のとおりであった。自治会参加と同窓会参加については「ほぼ毎回参加する」「半分以上参加する」を「参加する」、「半分も参加しない」「ほぼ参加しない」を「参加しない」とした。市内の人との相談と市内への年賀状、市外の人との相談、市外への年賀状については「0 人」「1～5 人」「11～50 人」「51 人以上」の 5 つの値で分析した。

まず、自治会参加、同窓会参加と、市内の人との相談、市内への年賀状、市外の人との相談、市外への年賀状についての関連をみていくことにする。

自治会に参加する人ほど、有意に同窓会に参加する人が高い。したがって仮説 1 は肯定された。これはおそらく、他者と話したりコミュニケーションを取ったりすることが好きな人であるなら、自治会などの交流の場に自ら進んで出かけて行くからであろう。

また、自治会に参加する人ほど、有意に市内の人と相談しあう。したがって仮説 2 は肯定された。これはおそらく、自治会での人との出会いやつながりが、市内の友人ネットワークを広げることには生かされているためであろう。そもそも自治会に積極的に参加している人は、地域に関心を持ち自ら関わりを持とうとする人が多いのではないか。自治会に参加するほど、有意に市内へ年賀状を送っていることに関しても、以上の理由から説明できるだろう。

ただし、自治会参加と市外の人との相談、市外への年賀状とは有意な関連がなかった。なぜなら、自治会に参加する人は地域の友人は大切にしている、必ずしも市外の友人と相談しあうほど親しくしているとは限らないだろうし、また、市内に目を向ける時間が長いため、市外との関わりは薄く、年賀状を出す人も市外に多いとは限らないからであろう。

さらに、同窓会参加と市外への年賀状とも有意な関連がなかった。したがって、仮説 3 は否定された。これはおそらく、市外と同窓生とは接点がなく、年賀状を出すといったコミュニケーションをとるほど親しくないからであろう。同窓会参加と市外の人への相談とは有意に関連がないことや、同窓会参加するほど有意に市内に年賀状を出しているといった結果をみてもわかるように、どちらかといえば市外より市内の同窓生と親しくしている実態がうかがえる。一方で、同窓会参加と市内相談とは有意な関連がなかったことに注目してみると、この二つの結果から、市内の同窓生とは年賀状を送るという一時的なコミュニケーションはとっているものの、普段からいろいろなことを相談しあうほど親密な関係を築いているわけではないことがいえる。

つぎに、市内の人との相談、市内への年賀状、市外の人との相談、市外への年賀状についての関連はどうだろうか。市内の人との相談をするほど、有意に市内への年賀状を出す。これは、市内の人同士の結びつきが強いためであろう。一方で、市外の人と相談をするほど、有意に市外への年賀状を出す。これは、市外の人との結びつきが強いためと考えられるが、先に述べた市内の人同士の結びつきが強いことも踏まえれば、武蔵野市民は、市内の友人とも市外の友人ともある程度結びつきが強いことが考えられる。

また、市内の人と相談をするほど、有意に市外の人との相談をする。したがって仮説 4 は否定された。これはおそらく、人の悩みは多い上に様々な種類があり、その内容ごとに市外・市内を問わずふさわしい相手を選び相談をするからであろう。あるいは、幅広く親密な友人関係を築いている場合、必然的に市内の人とも市外の人とも頻繁に相談事をしあうことになるからであろう。

また、市内への年賀状を出すほど、有意に市外への年賀状を出す。したがって仮説 5 は否定された。これはおそらく、人とのつながりを大事に考え、年賀状を出す人は、どちらにも年賀状を出すためであろう。つまり、幅広い地域に多くの友人がいて、その友人たちと積極的にコミュニケーションをとろうとするならば、必然的に市外・市内を問わず多くの年賀状を出すことになるだろうということである。市内の人と相談をするほど有意に市外への年賀状を出すことや、市内への年賀状を出すほど市外の人との相談をするといった結果についても、同じように友人付合いの幅広さ、親密さから説明することができるだろう。

第4節 まとめ

以上から、武蔵野市の人間像として、人間付き合いが幅広く親密な関係を築いていればいるほど、積極的に市内の人とも市外の人ともコミュニケーションを取り合うという姿が浮かびあがった。このことから、人々の人間関係の構築において重要なのは、人間関係の親密さといえそうである。というのは、武蔵野市の人間関係の形成のあり方には、共通基盤として「人への関心の程度」がみられる。つまり、人との関係を市外・市内問わずに広範囲に持つかどうかの個人差は、「他者との交流が好きな度合い」から生じる差であるといえる。

昨今では、地域社会での子どもの安全性確保の問題、少子高齢化による年配者の一人暮らしの危険性、地震などの自然災害の可能性がみられる。こうした状況からは、地域社会の交流の大切さ、地域コミュニティ形成の必要性が伺える。危機状態に陥ったときに近隣の人や地域の人同士の助け合いがつかれるかどうかは、普段からのコミュニケーションの有無が関係してくるからだ。

例えば、地震が起こったときに、隣の人の顔も知らなければ、自分が危険を背負ってまで、助ける気にはならないはずだ。混乱した状況下では、群集とならずに、「知り合い」として接する人の存在が大切である。

今回の調査では、地域の交流の場は、人間関係を広げるための場となっており、地域のコミュニティ形成に重要な役割を担っているということがわかった。都市化する諸地域でのコミュニケーションを活性化させるために、地域交流の場をもうけることが、現代社会における今後の課題であろう。

第6章 教育

榎本健志（班長）、日野原志帆（副班長）、佐藤春乃、室田知里

第1節 問題関心

この章では、現代社会において子どもの活字離れが問題となっているが、そもそも新聞や読書は教育に役立つと考えられているのかを検討する。なぜなら、子どもたちの周りには漫画やインターネット、ゲームなど魅力的なものがたくさんあるが、その中で本や新聞を読むことがどれだけ面白く、勉強になるかを大人が伝えるべきだと考えるからである。

全国書店新聞調査によれば、10代の1日平均の読書時間は39分であった。一方、テレビは162分であった。また、国立教育政策研究所教育課程研究センター「特定の課題に関する調査」によれば、「漢字は日常生活の中で必要だ」と答えた小学校2年生は90%を超えているが、「家庭で漢字学習を一生懸命やっている」と答えた生徒は約23%であった。「文章を書くことが好きだ」にたいして否定的に回答した児童の割合は、小学校4年生48.0%、5年生52.1%、6年生59.7%となり、学年が上がるにつれて書くことにたいする学習への抵抗感が強まっている。

このように、読み書きの重要性を理解していながらも実行していない子どもが多いことがわかる。インターネットや携帯電話が普及したことにより、人々の生活は顕著に変わった。現代社会に生まれた子どもたちには、大人が本や新聞の大切さを伝えていかなければならない。では、それを伝える側は本や新聞にたいしてどのような意識を持っているのだろうか。具体的には、新聞や本にたいする意識について、最終学歴という観点も交えて分析する。

そこで、以下の仮説を立てた。

仮説1：年配の人ほど、本や新聞は教育に役立つと思っているだろう。なぜなら、現代の若者と比べて本や新聞を読む習慣があり、文字に親しんでいるからである。

仮説2：女性ほど、本や新聞は教育に役立つと思っているだろう。なぜなら、主に子どもの教育には母親が関わっているからである。

仮説3：結婚している人ほど、本や新聞は教育に役立つと思っているだろう。なぜなら、家庭に子どもがいたら、教育への意識を持ち始めるからである。

仮説4：学歴が高い人ほど、本や新聞を読むことが勉強になると考えているため、それらが教育に役立つと思っているだろう。



読書・新聞の意義（そう思う、どちらかといえばそう思う）

第2節 集計結果

(1)読書

教育への意識について問 21 で、「一般に子供が本を読んだり、新聞を読んだりすることは教育に役立つと思いますか」と質問した。選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4つである。わかりやすくするために、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をまとめた2つで分析した。

読書が役立つかという質問に全体では、「そう思う」と答えた人が99.5%、「そう思わない」が0.5%と、圧倒的に役立つと思う人が多い。新聞は教育に役立つかという質問に「そう思う」と答えた人が97.1%、「そう思わない」と答えた人が2.9%と、読書同様大多数が役立つと答えている。

男女別で比べると、ほとんど差がないが、男性のほうがわずかに多かった。年代別だと、読書が教育に役立つと答えたのは40代50代の97.7%が最も多い。結婚している人は97.4%と、していない人の90.6%と比べて高い。市内在住年数を比べると、9年以下と10年以上ではほとんど差がない。

(2)新聞

また、新聞が教育に役立つかどうかの問いについては、男性95.3%、女性99.1%という結果になった。年代別では、意外にも20代の人全員が教育に役立つと答えた。結婚している人は、99.1%が役立つと答え、していない人の95.3%より高い結果になった。在住年数では、読書と同じくほとんど差がない。

第3節 考察

読書・新聞意識と最終学歴の関連は、表のとおりであった。新聞が教育に役立つと考える人ほど、有意に読書が教育に役立つと考えている。これはおそらく、活字文化が教育に役立つと考える人は、どちらか一方ではなく両方とも教育に役立つと考えているのだろう。

また、年配の人ほど読書・新聞が教育に役立つと考えるよりは、年代ごとに差があることがわかった。これはおそらく、年配の人に限らず、子どもの教育に一番関心があるであろう40代が、最も読書は教育に役立つとっていて、20代が新聞は役立つと最も思っているのは、

相関係数 (*は有意確率 5%未満、**は 1%未満)

	読書役立つ	新聞役立つ	大学・大学院	短大	高校	中学
読書役立つ						
新聞役立つ	0.20**					
大学・大学院	0.05	0.08				
短大	0.02	0.02	-0.57			
高校	0.06	-0.06	-0.55**	-0.25**		
中学	-0.29**	-0.13	-0.23**	-0.10	-0.10	

自分のためにも社会のことに興味を持つことが必要であると感じているからであろう。したがって、仮説 1 は否定された。

女性と男性の教育への関心について、割合では差が出たが、有意な差ではなかった。したがって、仮説 2 は否定された。これはおそらく、性別に関係なく、読書や新聞が教育に役立つと思われるからだろう。

結婚している人ほど、本や新聞が教育に役立つと有意に思っている。したがって、仮説 3 は肯定された。これはおそらく、結婚している人には子どもや孫がいて、教育には活字が必要だと思っているからだろう。

学歴ごとに比較すると、どうなるだろうか。中卒の人は、読書が教育に役立つとは思っていないという有意な関連がある。ただし、高学歴の人ほど、本や新聞は教育に役立つと思っているという有意な関係はなかった。したがって仮説 4 は否定された。これは、社会全体の読書離れが進んでいることの表れだろう。

第 4 節 まとめ

以上から、本や新聞は教育に役立つと思われることがわかった。それは、活字に触れることにより、自分で考える力がつき、情報や人の意見を論理的に理解することができるようになると考えられるからである。しかし、現代の若者は携帯電話、パソコン、ゲーム機器の浸透により、受け身の思考回路になりつつあるのではないか。その懸念が、活字離れの声として出てきていると思われる。たとえば、ある漢字を忘れてしまった時、20 年前なら分厚い国語辞典を引き、いくつかある候補の中から自分で読み、意味を理解し、該当する漢字を探さなければならなかった。しかし今は、薄い電子辞書で少ない例文のなかからすぐに該当語句を出すことができる。携帯電話のメール機能での意思疎通も頻繁になり、簡単な言葉を使い、さらには自分で書かなくとも変換すればすぐ漢字が出てくる。忙しい現代人の、時間短縮という考えが生んだ便利なものが、時間をかけて自分で調べる力を衰えさせ、考える能力を失わせるきっかけになっているのかもしれない。

学力低下や少子化問題など、教育のために考えなければならない問題は多々ある。どうすれば人々に教育への関心を持たせることができるのか。これらは、一人ひとりが興味を持つべきだろう。とりわけ、私たち学生にとって、社会問題に目を向けることは、私たちが大人

になっていくために必要なことだろう。大人になったときの社会のあり方も、今現在の過ごし方の延長線上にあるはずである。

活字を読むことが、日々生きていく中で自分を高める手助けをしてくれる存在だと気づく事ができたら、日本の活字離れは少なくなっていくだろう。そのためにも、本や新聞に積極的に接し、一人ひとりが他人任せにしない、自ら考え行動する力を養っていくことが、現代社会で求められているのだらうと、調査を通じて実感した。

第7章 環境問題

浜谷由実（班長）、小栗洋介（副班長）、柴田和徳、谷澤絵里子

第1節 問題関心

この章では、人々が環境問題にたいしてどのような意識を持っているのか、またどのように行動しているのかを、特にごみ処理に焦点をあてて検討する。なぜなら、現在地球温暖化などの環境問題が深刻化しており、個人レベルでの取り組みが強く必要とされているからである。具体的には人々のごみ未回収経験、ごみ出し日数、マイバッグ使用の有無、ポイ捨て頻度を分析する。

環境省「環境統計集」によれば、世界の年平均地上気温は年々上昇傾向にあり、1997 年以降は前年気温を下回ることなく上昇を続けている。そしてごみを燃やす際に出る二酸化炭素は、温室効果ガスとして地球温暖化を誘発するとされ、その発生量を減らすことが求められている。また、ごみを分別せずまとめて焼却処分すると二酸化炭素の他にも有害物質が生成される。したがって廃棄後も、再利用可能な資源を容易に回収して、より少ない労力とエネルギー消費でリサイクルできるように、ごみの細かな分別が必要とされている。

また、個人でできる具体的な環境保全対策として、マイバッグがある。一年間に使う買い物袋は、一人当たり平均すると年間 230 枚になる。家に持ち帰れば不要となる袋やトレイは、製造時はもちろんのこと、再生・破棄する際にも二酸化炭素を排出する。もし仮に各自がマイバッグを持参し、買い物袋をもらわないようにしたならば、一世帯あたり年間 58% の二酸化炭素削減になるとも言われている。

そこで以下の仮説を立てた。

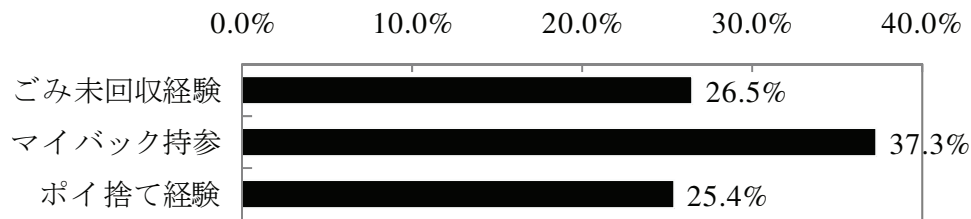
仮説 1：マイバッグを使う人ほど、環境に配慮しているだろうから、ポイ捨てをしないだろう。

仮説 2：ごみ未回収経験が多い人ほど、ごみ分別の意識が低いだろうから、ごみ出し日数が少ないだろう。

仮説 3：ごみ出し日数が多い人ほど、環境問題にたいする意識が高いだろうから、マイバッグを使うだろう。

仮説 4：男性と比べて女性ほど、直接家事に携わっているだろうから、ごみ出し日数が多いだろう。

仮説 5：歳をとっている人ほど、外出する機会が減るだろうから、ポイ捨てをしないだろう。



環境問題について（該当者の割合）

第2節 集計結果

(1)ごみ未回収

ごみ未回収経験の回数について、問10で「この一年間で、ごみの分別が不十分だったために、収集されなかったことはありますか」と質問した。選択肢は「0回」「1回」「2回」「3回」「4回以上」の5つであった。

0回という回答を「未回収経験なし」、1回・2回・3回・4回以上という回答を「未回収経験あり」とまとめると、全体での結果は、未回収経験なしが73.5%、未回収経験ありが26.5%であった。男女で比較すると、未回収経験ありと答えた割合は、女性で29.6%、男性で21.7%と、やや女性の方が高かった。年代別では特に大きな差は見られなかったが、経験ありという回答が一番多かったのが40代で29.5%、一番少なかったのが50代で23.3%であった。結婚している人としていない人を比べると、経験ありという回答がどちらも25%程度であり差は見られなかった。市内在住年数を比べると、経験ありという回答が、9年以下で23.5%、10年以上で27.9%と、年数が長いほど経験ありが多かった。

(2)ごみ出し

つぎに、一週間あたりのごみ出し日数について、問9で「あなたの家庭ではふだん、一週間に何日ごみを出しますか」と質問した。選択肢は「0日」「1日」「2日」「3日」「4日以上」の5つであった。

結果は、全体で見ると、0日と答えた人が1.5%、1日が4.5%、2日が12.9%、3日が28.9%、4日以上が52.2%であった。ここで武蔵野市のごみ収集スケジュールを見てみると、月曜日から金曜日までの5日間のうち、2日間は「燃やすごみ」の日、残りの3日間はそれぞれ「燃やさないごみ」「資源（ペットボトル、その他プラスチック容器）」「資源（ビン・缶、古紙・古着）」の日と設定されている。よって、先の結果より、半分以上の人がごみの分別に気を配り、決められた日にごみを出しているということになる。

男女で比較すると、どちらも4日以上がもっとも高い割合を占めているものの、女性の56.5%に比べて、男性は47.6%とやや低い。年代別に見ると、0日という回答は、20代の人に集中して見られ、他の年代には見られなかった。結婚している人は、0日と答えた人がまったくおらず、また4日以上が占める割合が6割を超えるなど、結婚していない人に比べてごみ出し日数が多い。在住年数を比べると、10年以上の人には0日という回答が見られず、

相関係数（†は有意確率10%未満、*は5%未満）

	ごみ未回収	ごみ出し日数	マイバッグ	ポイ捨て
ごみ未回収				
ごみ出し日数	0.12†			
マイバッグ	-0.04	0.12†		
ポイ捨て	0.03	-0.01	-0.14*	

在住年数が長いほどごみ捨て日数も多い。

(3)マイバッグ

マイバッグの使用頻度について、問 11 で「あなたは買い物に行くときに、レジ袋のかわりに買い物袋（マイバッグ）を持参しますか」と質問した。選択肢は「できるだけ持参している」「持参していない」の 2 つであった。

結果は、全体で見ると、持参していないと答えた人が 62.7%、できるだけ持参していると答えた人が 37.3%であった。男女で比較すると、できるだけ持参しているという回答が 20.2%であった男性にたいして、女性では 49.6%とほぼ半数の人がマイバッグを持参しており、大きな差が見られた。年代別だと、20 代では、持参しているという回答が 18.8%と、その他の年代に比べてかなり少なかった。結婚している人は、していない人に比べて、持参している割合がやや高かった。市内在住年数を比べると、持参しているという回答は 10 年以上の人の方がやや多かった。

(4)ポイ捨て

最後に、ポイ捨てをする頻度について、問 12 で「あなたはこれまで、飲み物の容器やたばこなどを『ポイ捨て』したことがありますか」と質問した。選択肢は「まったくない」「すこしはある」「ときどきある」「よくある」の 4 つであった。

結果は、全体で見ると、まったくないと答えた人が 74.6%、すこしはあるが 19.4%、ときどきあるが 4.5%、よくあるが 1.5%であった。およそ 4 分の 1 の人が、少なくとも一度はポイ捨てをしたと自覚しているということになる。

男女で比較すると、女性では 8 割以上の人の方がまったくないと答えているのに比べ、男性ではその割合が 6 割にも満たないというように、かなり差がある。年代別に見ると、20 代の人、まったくないという回答が 46.9%となっており、他の年代に比べて大きな差が見られた。結婚している人では、まったくないという回答が 8 割ほどを占めており、結婚していない人よりも割合が高かった。市内在住年数を比べると、まったくないという回答は、10 年以上の人の方がやや多かった。

第 3 節 考察

それぞれの関連は、表の通りであった。ごみ出し日数は 5 つの値で、マイバッグ使用頻度

は2つの値で、ポイ捨て頻度は4つの値で分析した。また、前節と同様に、ごみ未回収経験は、0回という回答を「未回収経験なし」、1回・2回・3回・4回以上という回答を「未回収経験あり」にまとめ、2つの値で分析した。

マイバッグを使用する人ほど、ポイ捨て頻度が有意に低い。したがって、仮説1は肯定された。これはおそらく、環境に配慮する人ほどマイバッグを使用しているのも、そういった人々はごみのポイ捨てもしないためであろう。

また、ごみ未回収経験のある人ほど、ごみ出し日数が多い傾向にある。したがって、仮説2は否定された。調査当初は、ごみ出し日数が多いのはそれだけごみを細かく分別しているからだろう、という立場から仮説を設定した。しかし、ごみ未回収経験がある事はその逆を意味するだろう。

また、ごみ出し日数が多い人ほど、マイバッグを使用する傾向にある。したがって、仮説3は肯定された。しかし、上記のように、ごみ出し日数が多いことは環境にたいする意識が高い事とは無関係であると言えそうなので、同様に仮説2の根拠部分是不確かといえる。よって、これはおそらく、ごみ出し日数が多い人はそれだけごみを出す量が多いという事のあらわれであり、そういった人はその分買い物をする量も多いと考えられるので、マイバッグを使用する方が楽であるためかもしれない。

また、男性と比べて女性ほど、有意にごみ出し日数が多い。したがって仮説4は肯定された。これはおそらく、女性の方が直接家事に携わっているためだろう。

また、年齢が高いほど、有意にポイ捨て頻度は低い。したがって仮説5は肯定された。これはおそらく、歳をとればとるほど外出する機会が減るため、そして年齢が高い人ほど公共心が身についているためだろう。

第4節 まとめ

以上から、私達はつぎのような人間像を設定した。若い男性は、よくポイ捨てをする。対照的に、年配の女性はほとんどポイ捨てをしない。未婚の男性は、あまりごみを出さない。対照的に、既婚の女性はよくごみを出す。また、年配の人で長く同じ場所に住んでいるひとは、あまりごみを出さない。対照的に、同じ場所に長く住んでいない若い人は、よくごみを出す。女性がマイバッグを持っていく人が多い。対照的に男性はほとんどマイバッグを持っていかない。性別、結婚、在住年数、年齢のどの項目をみても、まんべんなく未回収の経験がある。

総合すると、男性ほど環境問題にたいする意識は低く、とりわけ若い人においてはその傾向が顕著である。また、女性は相対的にごみの分別など環境問題に関心を持つ人の割合が高いといえる。

問題関心への回答として、マイバッグを持つ人ほど、ポイ捨てをしないという結果から、ごみ処理方法にたいする意識が高い人は環境問題に配慮し、積極的に環境保全運動を行っているといえる。

日常生活の中で環境問題について考えることは多い。街を歩けば道端に落ちている吸殻を

見かけるし、買い物をすると商品をきれいなデザインが描かれた袋に入れてくれる。以前は燃えるごみ、燃えないごみの二種類で分けられていた駅のごみ箱も、新聞と雑誌、缶とペットボトルなどより細かく分類されるようになった。しかし、我々はいつも落ちているごみを拾い集めたり、レジで「袋は結構です」と言っているだろうか。ペットボトルのキャップやビニールの包装を剥がして、別々に捨てているだろうか。恐らく普段から環境問題を考えている人でも、生活していく中でそこまで徹底していくことは難しい。そんな面倒なことやってくれるかと言う人もいるだろう。無理をする必要はないし、ほんの些細なことで構わない。身近なことから自分が出来ることを実践する。その積み重ねが環境破壊を食い止める力となるのである。それには各自が環境問題にたいして問題意識を持つことが重要であり、具体的な行動で示す必要があるだろう。

最近ではNPO（非営利団体）を中心とした運動も盛んになり、各種イベント等で環境について考える機会が増えている。また、そうした運動を積極的に受け入れ、自ら参加しようという気運が高まっているのも事実である。

今回の調査結果を踏まえ、これから社会を背負って立つ若い世代にたいしてどのように環境問題をアピールしていくか。如何にして環境問題に関心を持ってもらうかは重要な課題となるだろう。漠然と環境問題にどう対処すればよいのかという問いはあまりにもスケールが大きく、身近な問題として捉えにくい。しかし、どんなに些細なことでも、ごみの分別や資源のリサイクルによってごみを減らすことは環境保全に繋がる。日頃からきちんとごみを分別し、少しでもごみの量を減らす為にマイバッグを持つ。何気なく捨てたごみその後どうなるのか、後始末は誰がするのか。目先のことでなく、想像力を働かせ、少し先を見渡して考える。そんな当たり前のことが出来れば、安易にポイ捨てなんてしないだろう。世界中で環境問題対策が叫ばれる現代社会において、我々はそんな地道な運動を実践していくことが求められるのではないだろうか。日常生活の中でちょっとしたことに配慮する。それは環境問題を改善するための大きなうねりとなるかもしれない。

第Ⅱ部 資料

A 調査の概要

小林盾、武藤正義

第1節 調査の目的

この調査の目的は、人びとがどのように生活しており、地域についてどのように考えているのかを明らかにすることにある。現代社会では、価値観が多様化しており、その結果生活様式も複雑になっていると考えられるからである。また、地球規模での一体化（グローバリゼーション）が進む中で、ややもすれば地域社会との人びとの関わりが少なくなっているとも予想できるからである。

そのために、事例として東京都武蔵野市を取りあげた。武蔵野市は、東京都心部の近郊住宅地でありながら、吉祥寺というサブターミナル駅をもつため、商業施設も充実している。

なお、この調査は成蹊大学社会調査士課程における教育の一環であり、社会調査実習Ⅰ、Ⅱという授業の中で実施された。授業は通年で、毎週月曜2限（10：30～12：10）に社会調査士課程室で行われた。

第2節 調査対象者の抽出方法

東京都武蔵野市在住で、2006年8月1日現在22～70歳までの市民400人を、住民基本台帳から抽出した。二段無作為抽出法を用いた。

調査の概要

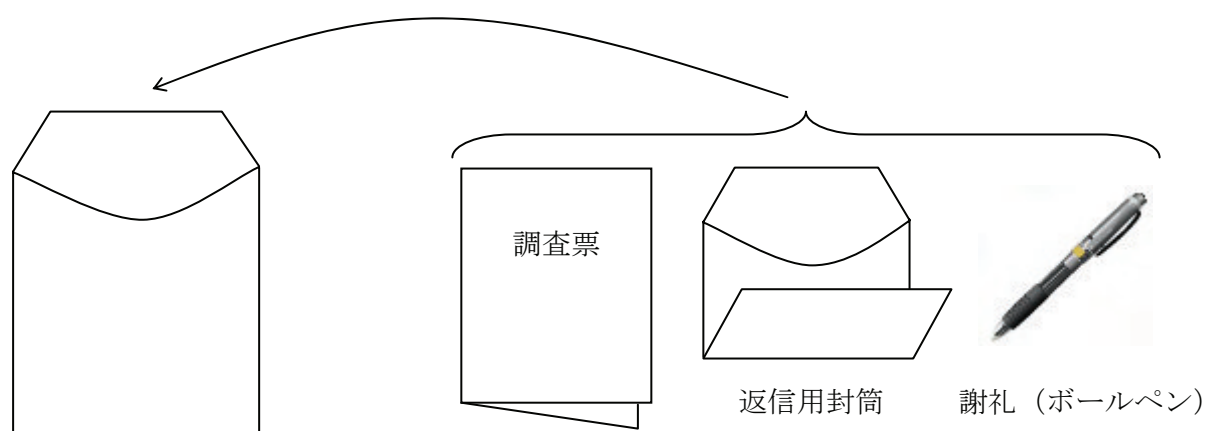
調査名	第1回 地域と生活に関する武蔵野市民調査
実施者	成蹊大学社会調査士課程
母集団	2006年8月1日時点で満22～70歳の武蔵野市民男女(1936年8月2日～1984年8月1日生まれ)
計画標本	400人
抽出方法	二段無作為抽出法（全51丁から吉祥寺南町2丁目、吉祥寺北町5丁目、中町1丁目、西久保1丁目、緑町2丁目、境1丁目、境南町5丁目、桜堤2丁目の8地点を無作為抽出してから、各地点50人を系統抽出した）
有効回収数	206人（回収率51.5%）
調査期間	2006年9月14日～10月19日
調査方法	郵送調査
謝礼	500円相当の成蹊大学のネーム入りボールペン

まず、地点として51丁から8丁を、パソコンを用いて無作為抽出した。

つぎに、武蔵野市役所にて住民基本台帳を閲覧して、各地点から 50 人ずつを系統抽出した。抽出間隔は人数÷50 人とした。このサンプリング作業は、2006 年 8 月 28 日午前 10 時から午後 4 時に、小林盾と武藤正義が行った。スタート番号は、あらかじめ各地点ごとに、50 以下の数をランダムに準備した。

第 3 節 調査方法と日程

調査は郵送法によって行った。調査票、返信用封筒（切手貼付ずみ）、謝礼を封入して、封筒にて送信した。送信用と返信用封筒ともに、角 2 号で、成蹊大学社会調査士課程室のネームが入っている。送信用封筒の表に「調査依頼在中」、返信用封筒の表には「返送期日 10 月 6 日」と押印した。督促状は葉書で全員に 2 回送付し、回収は匿名で行った。

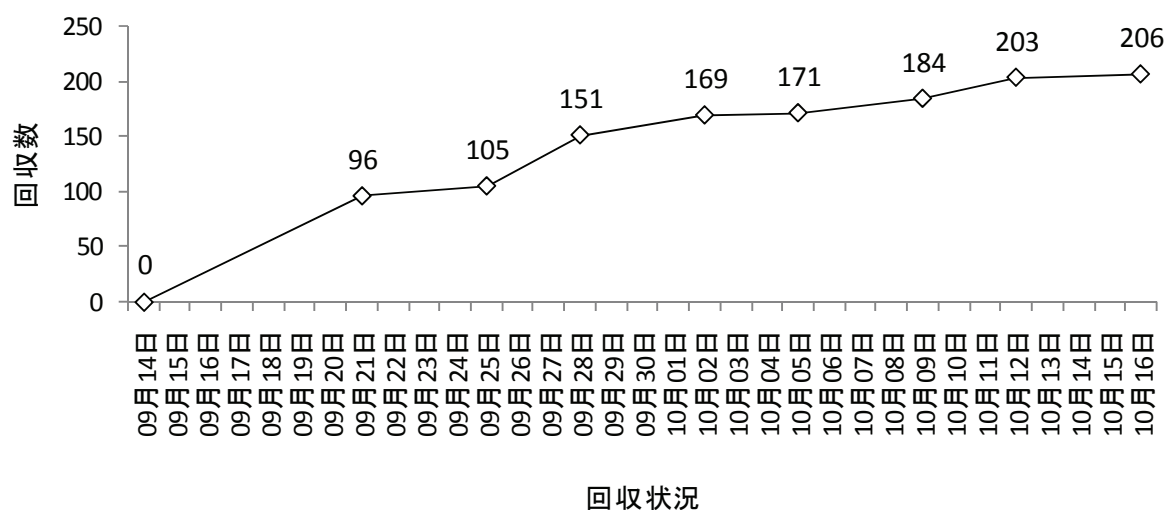


こうした作業は、以下の日程で進められた。

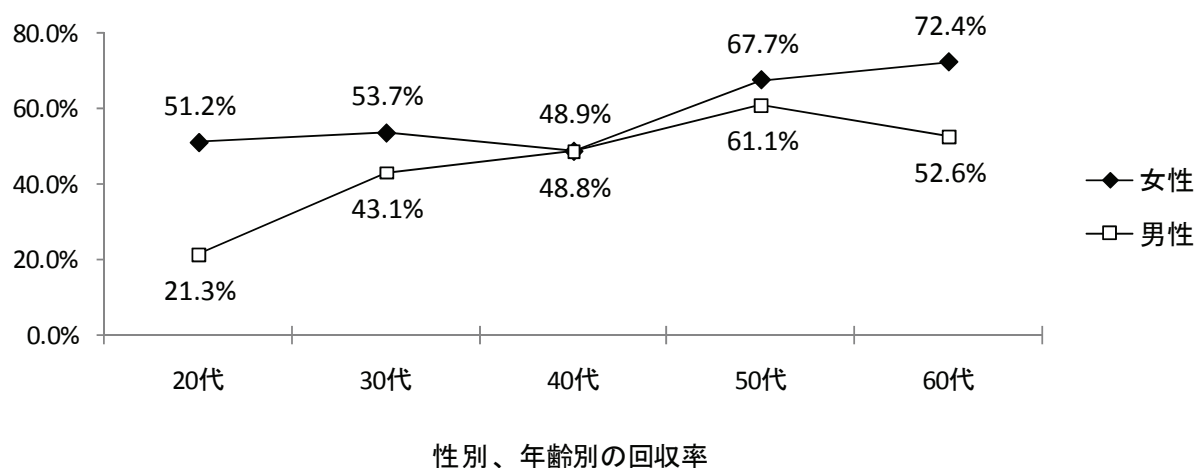
月 日	作業	具体的な内容
2006 年 4 月 10 日	授業開始	授業は週 1 回 90 分、1 年間
8 月 28 日	サンプリング	住民基本台帳から 400 人を抽出
9 月 11 日	調査票印刷	社会調査士課程室のプリンタにて
9 月 14 日	調査票発送	返送期日は 10 月 6 日
9 月 21 日	調査票回収開始	回収用ポストを履修課に設置
9 月 25 日	第 1 回督促状を送付、データ入力開始	
10 月 5 日	第 2 回督促状を送付	
10 月 6 日	調査票 返送期日	
10 月 19 日	最後の調査票が届く	回収作業終了
10 月 21 日	データチェック完了	
10 月 23 日	分析開始	
2007 年 1 月 15 日	報告書原稿の完成、授業終了	

第4節 回収状況

発送した400票のうち、有効回収票は206票であり、有効回収率は51.5%であった。近年、調査環境が悪化するなかにあって、都市部としてはかなり高い回収率といえる。時系列的な回収状況は、グラフのとおりである。



回収率を性別でくらべると、女性のほうがどの年代でも高かった。とくに、20代と60代で差が大きくなっている。



第5節 東京都武蔵野市について

東京都武蔵野市は東京23区の西側に接し、都庁所在地の新宿から約12kmの西方に位置する。東に杉並区、西に小金井市、南に三鷹市、北に西東京市が隣接している。市域は、東西に細長い形をしている。住宅地が多いが、各駅周辺には商業施設、市北部には野外スポーツ

施設や公園、南部には井の頭（いのがしら）公園周辺の緑地がある。

武蔵野市の市勢

地理	東西 6.4 キロ、南北 3.1 キロ、面積 10.7 平方キロ、標高 50～65 メートル
人口	133,990 人、男性 64,865 人、女性 69,125 人、69,057 世帯（2006 年 4 月 1 日現在）、人口密度 12,487 人／平方キロ
歴史	1889 年 神奈川県北多摩郡武蔵野村が誕生 1893 年 東京府に編入 1928 年 町制施行（東京府北多摩郡武蔵野町） 1947 年 市政施行（東京都武蔵野市）

武蔵野市には JR 中央線の駅が東から順に、吉祥寺、三鷹、武蔵境の 3 つある。吉祥寺駅から新宿駅へは JR 中央線で約 15 分であり、渋谷駅へは京王井の頭線で約 16 分である。武蔵境駅は西武多摩川線の終点でもあり、府中市や多摩川方向へとつながっている。



市の南に位置する井の頭公園とその周辺は、水辺や緑が多く、人びとの憩いの場となっている。武蔵野市には自治会や町内会がないが、かわりに市民が企画運営する「コミュニティ・センター」がある。コミュニティバス「ムーバス」は、通常のバスが通っていない地域をカ

バーしており、同種のサービスの先駆けとなった。

人口は約 13 万人であり、1970 年頃からほぼ横ばいで推移している。年齢別では、20 代・30 代が多く合わせて 35.0%を占める。反対に 20 歳未満は 14.6%と少ない（2006 年 4 月 1 日現在）。平均年齢は 42.2 歳である。1 世帯あたりは 1.95 人である。これは単身世帯が 49.8%とほぼ半分を占め、最も多いためである（2 人世帯は 22.8%、3 人世帯は 13.4%、4 人世帯は 10.7%、5 人世帯は 2.4%）。

人口密度は約 12,000 人（平方キロメートルあたり）であり、これは全国の市町村として 1 位の埼玉県蕨市、2 位の東京都 23 区につぐ。産業別人口のうち、第 1 次産業従事者は 0.4%、第 2 次産業従事者は 13.3%、第 3 次産業従事者は 82.7%であり、第 3 次産業に大きく偏っている。

なお、武蔵野市や吉祥寺に関する書籍は、数多く出版されている。武蔵野市については、たとえば『公助・共助・自助のちから：武蔵野市からの発信』（成蹊大学文学部学会、2006 年、風間書房）や『ムーバスの思想 武蔵野市の実践』（土屋正忠、2004 年、東洋経済新報社）がある。吉祥寺については、『吉祥寺スタイル：楽しい街の 50 の秘密』（三浦展、2007 年、文芸春秋）や『きちぼん』（きちぼん出版プロジェクト、2006 年、ラトルズ）が読みやすいだろう。

B 統計用語

小林盾

本文では、いくつか統計用語が使用されている。以下で、主なものを説明する。

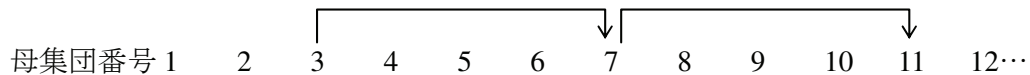
1 無作為抽出（ランダムサンプリング）

調査対象者が無作為抽出されたとは、各個人が同じ確率で選ばれていることを意味する。そうであれば、調査対象者（標本）は、たとえ人数が少なくても、全体（母集団）の縮図とみなすことができる。

今回の調査では、母集団である 22～70 歳の武蔵野市民は約 9 万人おり、標本である調査対象者は 400 人であった。

2 系統抽出法

系統抽出法とは、無作為抽出をするための簡便な方法である（ただし完全な無作為抽出法にはならない）。まず、1 人 1 人に母集団番号を振ってから、スタート番号を無作為に決めて、最初の標本とする。そのあとで、スタート番号から等間隔に、残りの標本を選ぶ。たとえば、スタート番号が 3 で、間隔が 4 であれば、つぎのように母集団番号 3、7、11、…が標本として選ばれる。



今回の調査では、住民基本台帳から調査対象者を選ぶときに、系統抽出法を用いた。地点ごとに、スタート番号を 24、間隔を 40 などとした。

3 平均

平均は、ある質問（変数という）を 1 つの数字で要約して、いわば重心を表す。つぎの式で計算される。

$$\text{平均} = \frac{\text{個人1の値} + \text{個人2の値} + \dots}{\text{合計人数}}$$

4 標準偏差

標準偏差は、ある変数の「散らばり」の度合いを 1 つの数字で表す。つぎの式で計算されて、0 以上の値になる。

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{(\text{個人1の値} - \text{平均})^2 + (\text{個人2の値} - \text{平均})^2 + \dots}{\text{合計人数} - 1}}$$

5 相関係数

相関係数とは、年齢と家族人数など、2つの質問がどれくらい関連しているのかを、1つの数字で表す。つぎの式で計算されて、-1 から 1 の間となる。

$$\text{相関係数} = \frac{(\text{個人1の変数1の値} - \text{変数1の平均}) \times (\text{個人1の変数2の値} - \text{変数2の平均}) + \dots}{\text{変数1の標準偏差} \times \text{変数2の標準偏差} \times (\text{合計人数} - 1)}$$

もし相関係数が-0.4 などマイナスであれば、片方が増えると他方は減ることになる（たとえば年をとるほど家族が減る）。もし相関係数が 0.4 などプラスであれば、片方が増えると他方も増える（年をとるほど家族が増える）。

本文では、相関係数がつぎのような表で表現されている。ここでたとえば、図書館利用と市への愛着の相関係数が、0.10 となっている。したがって、図書館をよく利用する人ほど、武蔵野市に愛着をもっていることが分かる。

相関係数（*は有意確率 5%未満）

	図書館利用	市への愛着	市への満足
図書館利用			
市への愛着	0.10		
市への満足	0.04	0.45*	

6 有意確率

有意確率は、3%や1%など小さいほど、関連や差が大きいことを表す。統計学では一般に、有意確率が 5%未満のときに、関連や差が十分に大きくて、母集団でも関連や差があると見なされる。

たとえば、上の表で市への愛着と市への満足の関連は、相関係数 0.45 で、有意確率 5%未満であった。したがって、市に愛着がある人ほど市に満足しているし、この関連は十分に強いことが分かる。そのような場合、「有意に関連している」などと表現される。

C 調査実施責任者・実習履修者一覧

調査実施者

成蹊大学社会調査士課程

調査実施責任者

小林 盾（文学部現代社会学科 専任講師）

武藤 正義（文学部現代社会学科 非常勤助手）

実習履修者（文学部現代社会学科 3 年）

宇賀神 早苗

梅津 望

榎本 健志

大久保 剛

岡田 晴樹

奥山 奈央子

小栗 洋介

桑原 美波

後藤田 義人

酒井 菜未子

坂井 裕美

佐藤 春乃

澤野 友佳理

柴田 和徳

鈴木 綾乃

田中 彩起子

田中 千尋

谷澤 絵里子

徳原 千

富澤 一恵

浜谷 由実

日野原 志帆

宮川 季実子

宮城島 苑子

村山 幸晴

室田 知里

望月 彩圭

矢頭 かほり

渡辺 恵

D 基礎集計表

武藤正義

各質問ごとに、基礎集計表を以下にまとめた。括弧は、集計後に作成した分類を表す。

問 1 あなたが、武蔵野市に住むようになったのは、何歳の頃からですか。

	人数	%	有効%	累積%
0 歳	23	11.1	11.4	11.4
1～10 歳	16	7.7	8.0	19.4
11～20 歳	20	9.7	10.0	29.4
21～30 歳	70	33.8	34.8	64.2
31～40 歳	52	25.1	25.9	90.0
41～50 歳	10	4.8	5.0	95.0
51～60 歳	9	4.3	4.5	99.5
61～70 歳	1	0.5	0.5	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 2 あなたは武蔵野市の図書館を、どれくらい利用しますか。

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎日	0	0.0	0.0	0.0
週数回	3	1.4	1.5	1.5
週 1 回程度	13	6.3	6.5	8.0
月 1 回程度	46	22.2	22.9	30.8
それ以下	66	31.9	32.8	63.7
利用しない	73	35.3	36.3	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問3 あなたは、以下の活動にどれくらい参加していますか（それぞれ1つ）。

（ア）自治会・コミュニティーセンターの行事

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎回参加する	7	3.4	3.5	3.5
半分以上参加する	12	5.8	5.9	9.4
半分も参加しない	19	9.2	9.4	18.8
ほぼ参加しない	164	79.2	81.2	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

（イ）市内外の同窓会・クラス会

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎回参加する	15	7.2	7.5	7.5
半分以上参加する	27	13.0	13.4	20.9
半分も参加しない	30	14.5	14.9	35.8
ほぼ参加しない	129	62.3	64.2	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問4 あなたは井の頭公園に、どなたと行くことが多いですか（最も多いもの1つ）。

	人数	%	有効%	累積%
家族と	92	44.4	45.5	45.5
友人と	0	0.0	0.0	45.5
恋人と	56	27.1	27.7	73.3
一人で	36	17.4	17.8	91.1
行ったことがない	13	6.3	6.4	97.5
その他	1	0.5	0.5	98.0
（ペットと）	4	1.9	2.0	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問5 あなたには、以下のお付き合いをする方が、武蔵野市内に何人くらいいますか（それぞれ1つ）。

（ア）いろいろなことを相談しあう

	人数	%	有効%	累積%
0 人	67	32.4	33.7	33.7
1 人～5 人	109	52.7	54.8	88.4
6 人～10 人	14	6.8	7.0	95.5
11 人～50 人	7	3.4	3.5	99.0
51 人以上	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	199	96.1	100.0	
無回答	8	3.9		
合計	207	100.0		

（イ）年賀状・年賀メールを送る

	人数	%	有効%	累積%
0 人	62	30.0	30.8	30.8
1 人～5 人	86	41.5	42.8	73.6
6 人～10 人	24	11.6	11.9	85.6
11 人～50 人	21	10.1	10.4	96.0
51 人以上	8	3.9	4.0	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問6 では、そうした方は、武蔵野市の外だと何人くらいいますか（それぞれ1つ）。

（ア）いろいろなことを相談しあう

	人数	%	有効%	累積%
0 人	12	5.8	6.0	6.0
1 人～5 人	106	51.2	53.0	59.0
6 人～10 人	52	25.1	26.0	85.0
11 人～50 人	26	12.6	13.0	98.0
51 人以上	4	1.9	2.0	100.0
有効回答計	200	96.6	100.0	
無回答	7	3.4		
合計	207	100.0		

(イ) 年賀状・年賀メールを送る

	人数	%	有効%	累積%
0 人	6	2.9	3.0	3.0
1 人～5 人	21	10.1	10.4	13.4
6 人～10 人	34	16.4	16.9	30.3
11 人～50 人	82	39.6	40.8	71.1
51 人以上	58	28.0	28.9	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 7 あなたは、友人知人から「武蔵野市は良いところだ」と言われたら、どのように感じますか。

	人数	%	有効%	累積%
とても嬉しい	77	37.2	38.3	38.3
嬉しい	85	41.1	42.3	80.6
どちらかといえば嬉しい	35	16.9	17.4	98.0
特に嬉しくはない	4	1.9	2.0	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 8 あなたは現在、武蔵野市に住んでいることにどれくらい満足していますか。

	人数	%	有効%	累積%
満足している	85	41.1	42.3	42.3
どちらかといえば満足している	98	47.3	48.8	91.0
どちらかといえば満足していない	14	6.8	7.0	98.0
満足していない	4	1.9	2.0	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 9 あなたの家庭ではふだん、一週間に何日ごみを出しますか。

	人数	%	有効%	累積%
0 日	3	1.4	1.5	1.5
1 日	9	4.3	4.5	6.0
2 日	26	12.6	12.9	18.9
3 日	58	28.0	28.9	47.8
4 日以上	105	50.7	52.2	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 10 この一年間で、ごみの分別が不十分だったために、収集されなかったことはありますか。

	人数	%	有効%	累積%
0 回	147	71.0	73.5	73.5
1 回	37	17.9	18.5	92.0
2 回	11	5.3	5.5	97.5
3 回	3	1.4	1.5	99.0
4 回以上	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	200	96.6	100.0	
無回答	7	3.4		
合計	207	100.0		

問 11 あなたは買い物に行くときに、レジ袋のかわりに買い物袋（マイバッグ）を持参しますか。

	人数	%	有効%	累積%
できるだけ持参している	75	36.2	37.3	37.3
持参していない	126	60.9	62.7	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 12 あなたはこれまで、飲み物の容器やたばこなどを「ポイ捨て」したことがありますか。

	人数	%	有効%	累積%
まったくない	150	72.5	74.6	74.6
すこしはある	39	18.8	19.4	94.0
ときどきある	9	4.3	4.5	98.5
よくある	3	1.4	1.5	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 13 武蔵野市の自転車駐輪場について、何か不満はありますか（もっとも重視するもの 1 つ）。

	人数	%	有効%	累積%
料金が低い	12	5.8	6.0	6.0
狭い	15	7.2	7.5	13.6
駐輪場が少ない	74	35.7	37.2	50.8
駐輪場を利用しない	89	43.0	44.7	95.5
その他	3	1.4	1.5	97.0
（不満ない）	6	2.9	3.0	100.0
有効回答計	199	96.1	100.0	
無回答	8	3.9		
合計	207	100.0		

問 14 あなたのお住まいは借家ですか、持ち家ですか。

	人数	%	有効%	累積%
借家、社宅	105	50.7	51.0	51.0
持ち家	101	48.8	49.0	100.0
有効回答計	206	99.5	100.0	
無回答	1	0.5		
合計	207	100.0		

問 15 あなたのお住まいから最寄り駅まで、歩いて何分くらいですか。

	人数	%	有効%	累積%
10 分未満	92	44.4	44.7	44.7
10～20 分	62	30.0	30.1	74.8
21 分～30 分	50	24.2	24.3	99.0
31 分～60 分	2	1.0	1.0	100.0
61 分以上	0	0.0	0.0	100.0
有効回答計	206	99.5	100.0	
無回答	1	0.5		
合計	207	100.0		

問 16 今のお住まいは、どのような理由で選びましたか（もっとも重視したもの 1 つ）。

	人数	%	有効%	累積%
交通・買物の便	77	37.2	37.6	37.6
広さ	16	7.7	7.8	45.4
自然環境	28	13.5	13.7	59.0
教育環境	3	1.4	1.5	60.5
価格	25	12.1	12.2	72.7
もともとの住まい	40	19.3	19.5	92.2
その他	6	2.9	2.9	95.1
（社宅・寮だから）	6	2.9	2.9	98.0
（家族の事情で）	4	1.9	2.0	100.0
有効回答計	205	99.0	100.0	
無回答	2	1.0		
合計	207	100.0		

問 17 あなたのお住まいの「床面積」は、どのくらいですか。庭・ベランダは含めないでください。

	人数	%	有効%	累積%
0～49 平方メートル	53	25.6	29.1	29.1
50～99 平方メートル	93	44.9	51.1	80.2
100～149 平方メートル	24	11.6	13.2	93.4
150～199 平方メートル	10	4.8	5.5	98.9
276 平方メートル	1	0.5	0.5	99.5
495 平方メートル	1	0.5	0.5	100.0
有効回答計	182	87.9	100.0	
無回答	25	12.1		
合計	207	100.0		

注意：1 坪は 3.3 平方メートルとして計算した

問 18 防犯対策は、何か行っていますか（もっとも重視しているもの 1 つ）。

	人数	%	有効%	累積%
ドアの二重ロック	66	31.9	31.9	31.9
警備会社と契約	14	6.8	6.8	38.6
常に窓を施錠	46	22.2	22.2	60.9
夜に無人でも点灯	16	7.7	7.7	68.6
特に何もしていない	63	30.4	30.4	99.0
その他	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	207	100.0	100.0	

問 19 この一年間で、ご家族（どなたでも）と、旅行に行きましたか（日帰り含む）。同居していないご家族も含めてお答えください。

	人数	%	有効%	累積%
0 回	50	24.2	24.3	24.3
1 回	48	23.2	23.3	47.6
2 回	41	19.8	19.9	67.5
3 回	28	13.5	13.6	81.1
4 回以上	39	18.8	18.9	100.0
有効回答計	206	99.5	100.0	
無回答	1	0.5		
合計	207	100.0		

問 20 あなたは以下のことを、ご家族（どなたでも）と、することはありますか。同居していないご家族も含めてお答えください（それぞれ1つ）。

（ア）夕食を一緒に食べる

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎日	85	41.1	41.7	41.7
週数回	44	21.3	21.6	63.2
週1回程度	20	9.7	9.8	73.0
月1回程度	15	7.2	7.4	80.4
それ以下	11	5.3	5.4	85.8
全くしない	29	14.0	14.2	100.0
有効回答計	204	98.6	100.0	
無回答	3	1.4		
合計	207	100		

（イ）テレビを一緒に見る

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎日	85	41.1	42.1	42.1
週数回	41	19.8	20.3	62.4
週1回程度	15	7.2	7.4	69.8
月1回程度	14	6.8	6.9	76.7
それ以下	16	7.7	7.9	84.7
全くしない	31	15.0	15.3	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100		

(ウ) 買い物と一緒にいく

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎日	10	4.8	4.9	4.9
週数回	38	18.4	18.7	23.6
週 1 回程度	35	16.9	17.2	40.9
月 1 回程度	49	23.7	24.1	65.0
それ以下	34	16.4	16.7	81.8
全くしない	37	17.9	18.2	100.0
有効回答計	203	98.1	100.0	
無回答	4	1.9		
合計	207	100.0		

(エ) 電話、メール、お喋りをする

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎日	96	46.4	47.5	47.5
週数回	37	17.9	18.3	65.8
週 1 回程度	24	11.6	11.9	77.7
月 1 回程度	21	10.1	10.4	88.1
それ以下	13	6.3	6.4	94.6
全くしない	11	5.3	5.4	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 21 一般に、子供が本を読んだり、新聞を読んだりすることは、教育に役立つと思いますか（それぞれ 1 つ）。

(ア) 本を読むことは役立つ

	人数	%	有効%	累積%
そう思う	194	93.7	94.2	94.2
どちらかといえばそう思う	11	5.3	5.3	99.5
どちらかといえばそう思わない	1	0.5	0.5	100.0
そう思わない	0	0.0	0.0	100.0
有効回答計	206	99.5	100.0	
無回答	1	0.5		
合計	207	100.0		

(イ) 新聞を読むことは役立つ

	人数	%	有効%	累積%
そう思う	167	80.7	81.5	81.5
どちらかといえばそう思う	32	15.5	15.6	97.1
どちらかといえばそう思わない	1	0.5	0.5	97.6
そう思わない	5	2.4	2.4	100.0
有効回答計	205	99.0	100.0	
無回答	2	1.0		
合計	207	100.0		

問 22 ご家庭で食品を購入するとき、以下のことはどれくらい重視しますか（一人暮らしの方はご自身について）（それぞれ1つ）。

(ア) 値段の安さ

	人数	%	有効%	累積%
重視する	79	38.2	38.3	38.3
どちらかといえば重視する	100	48.3	48.5	86.9
どちらかといえば重視しない	23	11.1	11.2	98.1
重視しない	4	1.9	1.9	100.0
有効回答計	206	99.5	100.0	
無回答	1	0.5		
合計	207	100.0		

(イ) 品質

	人数	%	有効%	累積%
重視する	140	67.6	68.0	68.0
どちらかといえば重視する	61	29.5	29.6	97.6
どちらかといえば重視しない	3	1.4	1.5	99.0
重視しない	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	206	99.5	100.0	
無回答	1	0.5		
合計	207	100.0		

(ウ) 安全性

	人数	%	有効%	累積%
重視する	136	65.7	65.7	65.7
どちらかといえば重視する	61	29.5	29.5	95.2
どちらかといえば重視しない	7	3.4	3.4	98.6
重視しない	3	1.4	1.4	100.0
有効回答計	207	100.0	100.0	

問 23 ご家族での外食は、どれくらいしますか（一人暮らしの方はご自身について）。

	人数	%	有効%	累積%
ほぼ毎日	17	8.2	8.2	8.2
週数回	30	14.5	14.5	22.7
週 1 回程度	62	30.0	30.0	52.7
月 1 回程度	58	28.0	28.0	80.7
それ以下	31	15.0	15.0	95.7
外食しない	9	4.3	4.3	100.0
有効回答計	207	100.0	100.0	

問 24 ご家族で外食をするとき、以下のことはどれくらい重視しますか（一人暮らしの方はご自身について）（それぞれ 1 つ）。

（ア）値段の安さ

	人数	%	有効%	累積%
重視する	31	15.0	15.3	15.3
どちらかといえば重視する	104	50.2	51.2	66.5
どちらかといえば重視しない	45	21.7	22.2	88.7
重視しない	21	10.1	10.3	99.0
外食しない	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	203	98.1	100.0	
無回答	4	1.9		
合計	207	100.0		

(イ) 味の良さ

	人数	%	有効%	累積%
重視する	130	62.8	64.4	64.4
どちらかといえば重視する	62	30.0	30.7	95.0
どちらかといえば重視しない	6	2.9	3.0	98.0
重視しない	2	1.0	1.0	99.0
外食しない	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

(ウ) サービス

	人数	%	有効%	累積%
重視する	70	33.8	34.7	34.7
どちらかといえば重視する	100	48.3	49.5	84.2
どちらかといえば重視しない	24	11.6	11.9	96.0
重視しない	6	2.9	3.0	99.0
外食しない	2	1.0	1.0	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 25 ご家庭の毎月のやりくりは、どのような状況ですか。

	人数	%	有効%	累積%
苦勞していない	36	17.4	17.8	17.8
どちらかといえば苦勞していない	78	37.7	38.6	56.4
どちらかといえば苦勞している	60	29.0	29.7	86.1
苦勞している	28	13.5	13.9	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 26 あなたの年齢と性別を、お聞かせください。

年齢

	人数	%	有効%	累積%
20代	32	15.5	15.9	15.9
30代	51	24.6	25.4	41.3
40代	44	21.3	21.9	63.2
50代	43	20.8	21.4	84.6
60代	31	15.0	15.4	100.0
有効回答計	201	97.1	100	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

性別

	人数	%	有効%	累積%
男性	86	41.5	42.6	42.6
女性	116	56.0	57.4	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 27 あなたは現在、結婚していますか。

	人数	%	有効%	累積%
結婚している	116	56.0	57.4	57.4
結婚していない	86	41.5	42.6	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 28 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか（あてはまる方すべて）。

	人数	%	有効%
夫または妻	113	54.6	55.9
子供	69	33.3	34.2
父母	38	18.4	18.8
兄弟姉妹	15	7.2	7.4
一人暮らし	52	25.1	25.7
その他	5	2.4	2.5
有効回答計	202	97.6	100.0
無回答	5	2.4	
合計	207	100.0	

問 29 あなたの現在の主なお仕事は、大きく分けてどれにあたりますか。

	人数	%	有効%	累積%
自営業主・自由業主	24	11.6	11.9	11.9
正社員・公務員	82	39.6	40.6	52.5
派遣社員・契約社員・嘱託社員	21	10.1	10.4	62.9
パート・アルバイト・内職・臨時雇用	26	12.6	12.9	75.7
主婦	30	14.5	14.9	90.6
学生	3	1.4	1.5	92.1
無職	16	7.7	7.9	100.0
その他	0	0.0	0.0	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 30 お勤めの方は、勤め先でどのような仕事をしていますか。どこに分類できるか分からない場合は、その他に○をつけて、具体的な仕事内容を書いてください。

	人数	%	有効%	累積%
管理職（企業・官公庁の課長以上）	23	11.1	11.4	11.4
専門職（医師・税理士・教師・技術者等）	33	15.9	16.3	27.7
事務職	38	18.4	18.8	46.5
販売・サービス職	36	17.4	17.8	64.4
現業職（建設作業・工場・運輸・保安等）	12	5.8	5.9	70.3
農林水産業	0	0.0	0.0	70.3
その他	1	0.5	0.5	70.8
現在仕事をしていない （自営業主・自由業主で職業不明）	51	24.6	25.2	96.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 31 かりに現在の日本社会を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入りますか。

	人数	%	有効%	累積%
上	3	1.4	1.5	1.5
中の上	45	21.7	22.4	23.9
中の中	75	36.2	37.3	61.2
中の下	54	26.1	26.9	88.1
下	24	11.6	11.9	100.0
有効回答計	201	97.1	100.0	
無回答	6	2.9		
合計	207	100.0		

問 32 あなたが最後に通った学校は、以下のどれにあたりますか（中退・通学中含む）。

	人数	%	有効%	累積%
中卒	8	3.9	4.0	4.0
高卒	40	19.3	19.8	23.8
短大・高専・専門学校卒	42	20.3	20.8	44.6
大学・大学院卒	112	54.1	55.4	100.0
旧制小学校・国民学校・青年学校	0	0.0	0.0	100.0
旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校	0	0.0	0.0	100.0
旧制高校・専門学校・高等師範学校	0	0.0	0.0	100.0
その他	0	0.0	0.0	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

問 33 その学校は、どちらにありましたか。

	人数	%	有効%	累積%
武蔵野市内	12	5.8	5.9	5.9
他の東京都内	125	60.4	61.9	67.8
他の関東地方	22	10.6	10.9	78.7
他の国内	38	18.4	18.8	97.5
海外	5	2.4	2.5	100.0
有効回答計	202	97.6	100.0	
無回答	5	2.4		
合計	207	100.0		

E 調査票と督促状

地域と生活に関する武蔵野市民調査

調査実施・お問い合わせ先：成蹊大学 社会調査士課程室
担当：文学部専任講師 小林 盾^{こばやし じゅん}、文学部助手 武藤 正義^{むとう まさよし}
0422-37-3972 月曜・木曜 10～16 時（18 日敬老の日も開室）
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

◆この調査について

- ・この調査は、武蔵野市民のみなさんが、地域や生活についてどのように考えているのかを調べています。みなさんからの回答を集計することで、武蔵野市のよりよい未来を考えます。
- ・武蔵野市役所の許可を得て、成蹊大学文学部で「社会調査実習」という授業の一環として行っています。強制ではありませんが、どうかご理解の上ご協力をお願い申し上げます。

◆調査対象者の選び方について

- ・調査対象者のみなさんは、22 歳から 70 歳までの武蔵野市民 400 人を、住民基本台帳からランダムに選びました。まず市役所で調査目的の審査を受けて、「名前や住所などプライバシーに関わる個人情報」は決して漏らさない」という誓約書を提出した上で、台帳の閲覧が許可されました。
- ・住民基本台帳から「何人おき」という形で抽出しました。すべての方にとって、抽出される可能性が等しくなっています。

◆回答について

- ・回答は 10 分ほどで終わります。無記名（匿名）でお答えください。
- ・成蹊大学ボールペンを同封しました。ご自由にお使いください（返送不要）。
- ・ほとんどの場合、あなたのお考えにもっとも近いものを 1 つ選んで「○」をつけていただきます。

例

①	2
ある	ない

ある	ない
1	②

◆返送について

- ・返信用封筒に入れてご投函ください。差出人住所・氏名は記入しないでください。
- ・調査票は、個人情報保護法にしたがって厳密に管理します。入力を終えたら廃棄します。

返送期日：10月6日（金）まで

◆調査結果の公開について

- ・無記名でお答えいただきますので、「どなたが回答したのか」は一切わかりません。
- ・回答は、集計したものだけを利用します。個別に分析することはありません。
- ・集計結果は、2007 年 2 月に成蹊大学社会調査士課程室のウェブページで公開する予定です。武蔵野市役所にも集計結果を提出します。

まず、武蔵野市についておたずねします。

問1 あなたが、武蔵野市に住むようになったのは、何歳の頃からですか。

	歳
--	---

問2 あなたは武蔵野市の図書館を、どれくらい利用しますか。

1	2	3	4	5	6
ほぼ毎日	週数回	週1回程度	月1回程度	それ以下	利用しない

問3 あなたは、以下の活動にどれくらい参加していますか（それぞれ1つ）。

	ほぼ毎回 参加する	半分以上 参加する	半分も 参加しない	ほぼ参加 しない
ア) 自治会・コミュニティセンターの行事	1	2	3	4
イ) 市内外の同窓会・クラス会	1	2	3	4

問4 あなたは井の頭公園に、どなたと行くことが多いですか（最も多いもの1つ）。

1	2	3	4	5	6
家族と	友人と	恋人と	一人で	行ったこと がない	その他（具 体的に

問5 あなたには、以下のお付き合いをする方が、武蔵野市内に何人くらいいますか（それぞれ1つ）。

	0人	1～ 5人	6～ 10人	11～ 50人	51人 以上
ア) いろいろなことを相談しあう	1	2	3	4	5
イ) 年賀状・年賀メールを送る	1	2	3	4	5

問6 では、そうした方は、武蔵野市の外だと何人くらいいますか（それぞれ1つ）。

	0人	1～ 5人	6～ 10人	11～ 50人	51人 以上
ア) いろいろなことを相談しあう	1	2	3	4	5
イ) 年賀状・年賀メールを送る	1	2	3	4	5

問7 あなたは、友人知人から「武蔵野市は良いところだ」と言われたら、どのように感じますか。

1	2	3	4
とても嬉しい	嬉しい	どちらかといえば 嬉しい	特に嬉しくはない

問8 あなたは現在、武蔵野市に住んでいることにどれくらい満足していますか。

1	2	3	4
満足している	どちらかといえば 満足している	どちらかといえば 満足していない	満足していない

環境問題などの社会問題についておたずねします。

問9 あなたの家庭ではふだん、一週間に何日ごみを出しますか。

1	2	3	4	5
0日	1日	2日	3日	4日以上

問10 この一年間で、ごみの分別が不十分だったために、収集されなかったことはありますか。

1	2	3	4	5
0回	1回	2回	3回	4回以上

問11 あなたは買い物に行くときに、レジ袋のかわりに買い物袋（マイバッグ）を持参しますか。

1	2
できるだけ 持参している	持参していない

問12 あなたはこれまで、飲み物の容器やたばこなどを「ポイ捨て」したことがありますか。

1	2	3	4
まったくない	すこしはある	ときどきある	よくある

問13 武蔵野市の自転車駐輪場について、何か不満はありますか（もっとも重視するもの1つ）。

1	2	3	4	5
料金が低い	狭い	駐輪場が少ない	駐輪場を 利用しない	その他 (具体的に)

あなたのお住まいについておたずねします。

問 14 あなたのお住まいは借家ですか、持ち家ですか。

1	2
借家、社宅	持ち家

問 15 あなたのお住まいから最寄り駅まで、歩いて何分くらいですか。

1	2	3	4	5
10分未満	10～20分	21～30分	31～60分	61分以上

問 16 今のお住まいは、どのような理由で選びましたか（もっとも重視したもの1つ）。

1	2	3	4	5	6	7
交通・買物の便	広さ	自然環境	教育環境	価格	もともとの住まい	その他（具体的に）

問 17 あなたのお住まいの「床面積」は、どのくらいですか。庭・ベランダは含めないでください。

およそ 平方メートル、または 坪

問 18 防犯対策は、何か行っていますか（もっとも重視しているもの1つ）。

1	2	3	4	5	6
ドアの二重ロック	警備会社と契約	常に窓を施錠	夜に無人でも点灯	特に何もしていない	その他（具体的に）

ご家族の生活についておたずねします。

問 19 この一年間で、ご家族（どなたでも）と、旅行に行きましたか（日帰り含む）。同居していないご家族も含めてお答えください。

1	2	3	4	5
0回	1回	2回	3回	4回以上

問 20 あなたは以下のことを、ご家族（どなたでも）と、することはありますか。同居していないご家族も含めてお答えください（それぞれ1つ）。

	ほぼ 毎日	週数回	週1回 程度	月1回 程度	それ 以下	全く しない
ア) 夕食を一緒に食べる	1	2	3	4	5	6
イ) テレビを一緒に見る	1	2	3	4	5	6
ウ) 買い物に一緒に行く	1	2	3	4	5	6
エ) 電話、メール、お喋りをする	1	2	3	4	5	6

問 21 一般に、子供が本を読んだり、新聞を読んだりすることは、教育に役立つと思いますか（それぞれ1つ）。

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
ア) 本を読むことは役立つ	1	2	3	4
イ) 新聞を読むことは役立つ	1	2	3	4

問 22 ご家庭で食品を購入するとき、以下のことはどれくらい重視しますか（一人暮らしの方はご自身について）（それぞれ1つ）。

	重視する	どちらかといえ ば重視する	どちらかといえ ば重視しない	重視しない
ア) 値段の安さ	1	2	3	4
イ) 品質	1	2	3	4
ウ) 安全性	1	2	3	4

問 23 ご家族での外食は、どれくらいしますか（一人暮らしの方はご自身について）。

1	2	3	4	5	6
ほぼ毎日	週数回	週1回程度	月1回程度	それ以下	外食しない

問 24 ご家族で外食をするとき、以下のことはどれくらい重視しますか（一人暮らしの方はご自身について）（それぞれ1つ）。

	重視する	どちらかとい えば重視する	どちらかといえ ば重視しない	重視しない	外食しない
ア) 値段の安さ	1	2	3	4	5
イ) 味の良さ	1	2	3	4	5
ウ) サービス	1	2	3	4	5

問 25 ご家庭の毎月のやりくりは、どのような状況ですか。

1	2	3	4
苦勞していない	どちらかといえ ば苦勞していない	どちらかといえ ば苦勞している	苦勞している

最後に、あなたご自身についておたずねします。

問 26 あなたの年齢と性別を、お聞かせください。

歳	1 男	2 女
---	--------	--------

問 27 あなたは現在、結婚していますか。

1	2
結婚している	結婚していない

問 28 あなたは現在、どなたと一緒に住んでいますか（あてはまる方すべて）。

1	2	3	4	5	6
夫または妻	子供	父母	兄弟姉妹	一人暮らし	その他（具体的 に）

問 29 あなたの現在の主なお仕事は、大きく分けてどれにあたりますか。

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 自営業主・自由業者 | 5 主婦 |
| 2 正社員・公務員 | 6 学生 |
| 3 派遣社員・契約社員・嘱託社員 | 7 無職 |
| 4 パート・アルバイト・内職・臨時雇用 | 8 その他（具体的に） |

問 30 お勤めの方は、勤め先でどのような仕事をしていますか。どこに分類できるか分からない場合は、7に○をつけて、具体的な仕事内容を書いてください。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 管理職（企業・官公庁の課長以上） | 5 現業職（建設作業・工場・運輸・保安等） |
| 2 専門職（医師・税理士・教師・技術者等） | 6 農林水産業 |
| 3 事務職 | 7 その他（具体的に |
| 4 販売・サービス職 | 8 現在仕事をしていない |

問 31 かりに現在の日本社会を5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入りますか。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 上 | 中の上 | 中の中 | 中の下 | 下 |

問 32 あなたが最後に通った学校は、以下のどれにあたりますか（中退・通学中含む）。

- | | | |
|--------------|------|-----------------------|
| 1 中学校 | 旧制 { | 5 小学校・国民学校・青年学校 |
| 2 高校 | | 6 中学校・高等女学校・実業学校・師範学校 |
| 3 短大・高専・専門学校 | | 7 高校・専門学校・高等師範学校 |
| 4 大学、大学院 | | 8 その他（具体的に |

問 33 その学校は、どちらにありましたか。

- | | | | | |
|-------|--------|--------|------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 武蔵野市内 | 他の東京都内 | 他の関東地方 | 他の国内 | 海外 |

ご協力ありがとうございました。返信用封筒に入れてお送りください。

最後に、もしこの調査や成蹊大学についてご意見・ご感想がございましたら、お聞かせください。

第1回督促状（9月25日送付）

武蔵野市民の皆さまへ 調査ご協力へのお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、私ども成蹊大学社会調査士課程室は、武蔵野市役所から許可をいただき、正規の授業の一環として「地域と生活に関する武蔵野市民調査」を実施致しております。先日、調査票を郵送させていただきましたが、お手元に届いていますでしょうか。どうか趣旨をご理解いただき、ご協力お願いできれば幸いです。ご多忙中まことに恐れ入りますが、10月6日までにご返送くださいますよう改めてお願い申し上げます。

なおこの調査は無記名での回収になりますので、調査対象の皆様全員に本状をお送りしています。すでにご回答いただいている方々にはお詫び致しますとともに、調査へのご協力に心から御礼申し上げます。

末筆ながら、皆さまの益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

2006年9月

成蹊大学社会調査士課程室 小林盾・武藤正義

0422-37-3972 月曜・木曜 10～16時

第2回督促状（10月5日送付）

武蔵野市民の皆さまへ 調査ご協力への再度のお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、私ども成蹊大学社会調査士課程室は、武蔵野市役所から許可をいただき、正規の授業の一環として「地域と生活に関する武蔵野市民調査」を実施致しております。地域社会の実情と課題を明らかにするためには、一人でも多くの方々のご支援をたまわりたいと考えております。返送期日は10月6日（金）でしたが、多少でしたら期日を過ぎても結構ですので、どうか調査の趣旨をご理解いただき、ご返送くださいますよう改めてお願い申し上げます。

なおこの調査は無記名での回収になりますので、調査対象の皆様全員に本状をお送りしています。すでにご回答いただいているの方々にはお詫び致しますとともに、調査へのご協力に心から御礼申し上げます。

末筆ながら、皆さまの益々のご発展をお祈り申し上げます。

謹白

2006年10月

成蹊大学社会調査士課程室 小林盾・武藤正義

成蹊大学社会調査実習 2006 年度報告書

—第 1 回 地域と生活に関する武蔵野市民調査—

発行日 2008 年 3 月 1 日

監 修 成蹊大学社会調査士課程

編 集 小林盾、武藤正義

発 行 成蹊大学社会調査士課程

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

電話 0422-37-3972

印 刷 大和メディアクリエイティブ
